

映画公社旧蔵資料目録

佐崎順昭

映画公社旧蔵資料とは、1945年6月に業務を開始し終戦を経てその年の11月に解散した社団法人映画公社の所蔵していた映画関係資料の一部である。

映画公社(映公)は、戦時体制が緊迫化する中で、従来、映画の配給業務を統括していた社団法人映画配給社と、官民合同の統制指導機関であった大日本映画協会(財団法人から社団法人へ改組)や、財団法人大日本興行協会・映画部などの諸団体が統合されてできた団体であり、映画の製作・配給・興行を一元的な国家管理の下に置く最終的な統制機関であった。

映画公社の持っていた資料は、単に映画公社のみの資料にとどまらず、それまで各団体が蓄積していたものの集積をも意味した。その根幹をなしているものは、キネマ旬報社調査部の所蔵していた資料である。1940年末、出版統制により雑誌『キネマ旬報』は終刊し、後継の『映画旬報』に移行した際、旧キネマ旬報社社長の田中三郎は、他の映画雑誌社と合同の業界団体、日本映画雑誌協会を設立した。その際、旧キネマ旬報社の資料は日本映画雑誌協会の所蔵になったと思われる。これらの資料に、大日本映画協会の資料や映画配給社のものが加わって、前記の映画公社に統合されたことが、資料に付された蔵書印や図書ラベル等からも推測される。また、日本映画雑誌協会編纂の『映画年鑑』昭和17年版や昭和18年版には映画関係記事の調査がなされているが、今回の整理で明らかとなった多くのスクラップブックの存在は、そうした調査が系統だって継続していたことを伺わせる。未完に終わった『映画年鑑』昭和20年「映画界日誌」の7月10日の記述に、「映公内に「映画資料文献戦時保管委員会」設置(重要資料の疎開準備に着手せるも実現に至らず終戦となる)」「(『戦時下映画資料 映画年鑑 昭和18・19・20年』第1巻、日本図書センター、2006年、218頁)との情報を見出すことができる。疎開がなされなかった資料が、戦災を免れたことは幸運というより他ないが、そこには資料保存に尽力した関係者の並々ならぬ努力があったものと推察される。¹⁾

さらに敗戦と映画公社解散により資料が散逸せず、日本映画連合会(映連)に移管されたことについて、戦時下の最終的な統制機関であった映画公社が、政府の強制的な統制団体ではなく、映画業界の自治的な組織であったとする加藤厚子の研究(『総動員体制と映画』新曜社、2003年、263頁)は、資料移管の側面からも裏付けられることといえよう。今回調査した資料の一部に戦後の情報が混ざっていることも、人員や機構の面で二者の連続性を伺わせるに充分である。

映画公社解散後、その資料を保存していた日本映画連合会は、1951年に国立国会図書館に当該資料の寄贈を行った。『キネマ旬報』1951年5月上旬号の「時報」欄(51頁)に「映画文献国会図書館へ寄

贈」の見出しで、概略、次のような記事が掲載されている。映画公社解散後、映画に関する書籍が散逸しがちであったので、映連ではこれを保管、整理中であったが、1951年3月27日、国立国会図書館に寄贈することに決定し、贈呈式を行った。映連側からは、城戸四郎、牛原虚彦、池田義信、田中三郎、小林勇吉、守安正、津田時雄、村井一也が出席し、国会図書館長金森徳次郎に贈呈書を手渡した。資料の内訳は、和書1,328冊、洋書199冊、未製本6,815冊、その他スチル、脚本、プロマイド、ポスター、映画関係書類多数となっている。

1973年に、東京国立近代美術館は国立国会図書館に映画資料の譲与に関するお願いを行い、それを受ける形で、翌1974年1月(会計年度では1973年度・決裁日は1974年1月23日)に国立国会図書館から図書や雑誌を除く映画関係資料がフィルムセンターに寄贈された。²⁾ それらの資料の中には、前記のように、戦前のキネマ旬報社調査部が蒐集した膨大な映画スチルやポスター、脚本類が含まれており、これらはすでに整理を終え「国立国会図書館寄贈資料」としてフィルムセンターの重要なコレクションの一部をなしているが、今回新たに整理を終えた資料は、スチル、ポスター、脚本などの定型分類に収まらないものである。例えば、社内報などの業界内部の定期刊行物や、大日本映画協会や映画配給社などが行ったと推測される新聞記事のスクラップブック、大日本興行協会が実施した映画館の調査資料、さらには会議資料や映画人養成の講演会原稿など、一般の眼に触れることのなかった内部資料などである。勿論、現存する「映画公社旧蔵資料」は、映画公社に集積された資料の全体性や網羅性という観点からは必ずしも充分とはいえないが、これら散逸を免れた一次資料の整理・公開は、戦時下の日本映画研究における実証的な分析の一助となるものであることを確信している。

参考資料として、別表に資料の形態別の内訳と、旧所蔵団体別の内訳を掲げておく。旧所蔵団体は所蔵印や発行主体等から明確なものだけを数に入れた。

なお、資料の排列は、形態別になされている。

註

- 1) 戦時下の映画資料が辿った変遷は、今回の「映画公社旧蔵資料」と直接的な関係はないが、幻の映画年鑑といわれた「映画年鑑 昭和18・19・20年」(前記のように日本図書センターより復刻)の編纂者である津田時雄がその序で記したように、津田の職歴が旧キネマ旬報社から日本映画雑誌協会(1943年末解散)、社団法人日本映画協会を経て映画公社への異動という経路を辿ったことと似通ったものがある。ちなみにこの幻の年鑑の原稿綴りは、1952年、開館して間もない国立近代美術館フィルム・ライブラリー(東京国立近代美術館フィルムセンターの前身)に津田自身により寄贈された。
- 2) このとき映画公社旧蔵資料と一緒に寄贈された資料に「袋一平コレクション」がある。「袋一平コレクション」に関しては、『無声時代ソビエト映画ポスター《袋一平コレクション》カタログ』(東京国立近代美術館フィルムセンター、2009年、7頁)参照。

参考資料 映画公社旧蔵資料内訳(総数 199点)

資料形態別

映公 01-001 ～ 01-035	定期刊行物 (雑誌、月報、社内報、通信、パンフレット)	35 点
映公 02-001 ～ 02-083	スクラップブック (新聞切抜、雑誌切抜、映画館週報添付、広告切抜)	83 点
映公 03-001 ～ 03-021	調査資料 (調査表=主に映画館や機材についての系統だったもの、映画人名カード)	21 点
映公 04-001 ～ 04-010	目録 (映画作品目録、図書目録、雑誌目録)	10 点
映公 05-000 ～ 05-050	内部文書 (議事録、講演会原稿、規程、その他)	50 点

旧所蔵団体別

キネマ旬報社調査部	12 点
日本映画雑誌協会	4 点
大日本映画協会	21 点
大日本興行協会	9 点
映画配給社	35 点
映画公社	9 点
その他・不明	109 点

映画公社旧蔵資料目録

凡例

- ・「映公」以下の番号は資料番号。最初の2桁が形態別、次の3桁が形態別による通し番号。
- ・資料番号に続く〈 〉内は旧所蔵団体名。
- ・資料番号、旧所蔵団体名に続くタイトルは、資料名。
- ・内容細目は、ピリオド「.」により記事のタイトルを区別し、アンダーバー「_」とスラッシュ「/」で常設欄(または特集欄名等)と個別の記事タイトルを併記した。なお()内は執筆者名。
- ・[]は編者の補記。
- ・スクラップブックの内容に関しては、個別の掲載紙誌や記事のタイトル、筆者名を逐一採録することが望ましいが、膨大な量になるため、記事のタイトルや映画作品名、筆者名、主題等を適宜インデックス代わりに列記した。
- ・漢字表記は概ね新字体に直し、仮名遣いは歴史的仮名遣いのままとした。

1. 定期刊行物

<p>映公 01-001 (映画配給社資料)</p> <p>映画配給社報 第4号</p> <p>発行所 社団法人映画配給社 1943.03.15 編輯兼発行兼印刷人：中島藤一 32p</p> <p>内容細目 映画新体制一周年を迎えて(不破祐俊)、興行と防空の話(館林三喜男)、新配給案に就いて(柴田芳男)、南方各支社便り(田村幸彦)、東京国民映画普及会の動態、劇映画新作品_桃太郎の海鷲/関ふ護送船団/音楽大進軍/姿三四郎/陸軍航空戦記/風雪の春、新文化映画_防空読本 救護篇/工兵魂/放送演奏室、興行者の頁_観客避難訓練(錦引富郎)、「撃ちてしまむ」週間と移動映写運動(浅尾忠義)、各社新映画製作状況(業務部連絡課第一係)。</p> <p>解説 「映画配給社報」は1943年2月1日、創刊。1日と15日の月2回発行。これに先立ち、「映画配給社報 社内版」は映画配給社が業務を開始した年の1942年4月30日に創刊された。発行人の中島藤一は東和商事映画部の元宣伝部員で、永島一朗名義で戦後は映画プロデューサーとして活躍した。</p>
<p>映公 01-002 (映画配給社資料)</p> <p>映画配給社報 第5号</p> <p>発行所 社団法人映画配給社 1943.04.01 編輯兼発行兼印刷人：中島藤一 32p</p> <p>内容細目 映画配給社創立一周年への献辞_所感の一端を述ぶ(大谷竹次郎)/映画界の大合同を望む(伊東恭雄)/映画配給社一周年に際して(那波光正)、映画館 今月のおぼえがき_「弾丸切手」の宣伝御依頼 全国映画館支配人各位(楠瀬熊彦)、映画興行場と災害(岡崎重彦)、新配給案の解説(柴田芳男)、十七年度大臣賞獲得映画並びに保存映画(文部省)、フィルム保護器の取扱ひ方(須田清一)、劇映画新作品_敵機空襲/兵六夢物語/家/望楼の決死隊、新文化映画_仔馬/驍北の仔/敵機第二輯 わが本土を窺ふもの、楽しい短篇_女で護る村/海軍館/ジルダの唄/小さな慰問隊/相馬野馬追祭/お山/防空陣/獵師と仔馬、興行者の頁_浅草興行街瞥見(島尾良造)、特別行為税に就いて(印刷文化協会)。</p>
<p>映公 01-003 (映画配給社資料)</p> <p>映画配給社報 第6号</p> <p>発行所 社団法人映画配給社 1943.04.15 編輯兼発行兼印刷人：中島藤一 32p</p> <p>内容細目 大東亜共栄圏の映画建設_南方視察より帰りに(植村泰二)、決戦下の映画興行に望む(草間雅義)、映画館 今月のおぼえがき_伸ばせ少年! 鍛へよ少年! 四月十七・八日は少年保護記念日 映画館も少年輔導の良き道場(司法省)/軍人援護も決戦調「軍人援護精神昂揚運動」に際して全国映画館の御協力を切にお願いいたします(軍事保護院指導課)/靖国の御遺族を町重にもてなませう(東京興行者協会)、青少年向映画の選定について(青戸要三)、第七回文部省選定課外用映画/第七回文部省選定青年向映画、近く開始される興行資材の配給に就て(山崎博章)、いよいよ誕生した資材統制会社案内(中谷義一郎)、フィルム事故月報、映写回数制限と映写技術の重要性(鴨打隆之)、新作品宣伝解説_シンガポール総攻撃/くもとちゅうりつぶ、新文化映画_少国民進軍歌、財団法人大日本興行協会生れる(田口憲三)、17ネンド情報局国民映画受賞作品、国民映画普及会結成状況、各社新映画製作状況(業務部連絡課第一係)、南方向け劇映画募集(情報局)。</p>
<p>映公 01-004 (映画配給社資料)</p> <p>映画配給社報 第7号</p> <p>発行所 社団法人映画配給社 1943.05.01 編輯兼発行兼印刷人：中島藤一 32p</p> <p>内容細目 この月の強調事項_簡易保険「一億新加入運動」が今月いっぱい展開されます 映画館の御協力を願ひます/「婦人勤労参戦報国際」の編成に際し映画館を通じてその周知方をお願い致します、金属類の非常回収があります(佐野清助)、興行新調整の頁_時間別興行の実態を映画館に聞いてみる/自由時間興行から重点時間興行へ(柴田芳男)、宣伝材料の型や割当が変わります(飯田晃久)、短篇の新配給法とその配給順列(業務部業務課第三係)、5月期短篇映画配分表、興行建設線_秋田・</p>

<p>映画界から（村山多七郎）、映画館の人の雇入と労務調整令（唯木彬）、青少年向映画の観覧指導一（文部省）、新劇映画作品宣伝解説_あさぎり軍歌/むすめ/宮本武蔵 二刀流開眼、新文化映画_この弾丸/明るい村、俱知安町布袋座の災害状況がくわしく報告されました（北海道支社長）、南方向け劇映画募集（情報局）、</p>	
<p>映公01-005（映画配給社資料） 映画配給社報 [第8号]</p> <p>発行所 奥付欠落 [号数は推定] 1943.05.15 [推定] 32p 表紙・裏表紙欠落</p> <p>内容細目 第三十八回海軍記念日を迎へて（矢野英雄）、決戦下の海軍記念日映画（浜田昇一）、海軍記念日映画宣伝解説_海ゆかば/海軍戦記、青少年向映画の観覧指導二（文部省）、興行新調整の実況調査_興行新体制を九州の映画館にひろふ、配給と興行の新体制_配給新調整実施の所感（山崎正雄）、興行新調整問答_団体動員をどう扱ふか（有島史郎）/興行者の自治に期待す（柴田芳男）、フィルム事故報告、フィルム取扱ひ注意の要点（須田清一）、新文化映画_新生広東/高原の村、興行建設線_新体制興行に於ける「江東地区の覚え書」（池田汀）、興行者の頁_「社報」と館員読本（高橋正義）、興行者の声_新時代の映画館（波根康正）、映画新体制一年に於ける興行封切成績順位一覧、各社別封切成績調査統計表、</p>	
<p>映公01-006（映画配給社資料） 映画配給社報 第9号</p> <p>発行所 社団法人映画配給社 1943.06.01 32p 表紙・裏表紙欠落</p> <p>内容細目 映画館 この月の強調事項_戦力増強安全強調週間の催し（厚生省）/二百七十億貯蓄総進軍特別計画が実施されます（大蔵省国民貯蓄局）、フィルム愛護特輯_フィルムは生きてゐる（近藤三三郎）/フィルム映写美と映写精神（須田清一）、フィルム事故報告、南方映画通信（田村幸彦）、文部省推薦映画に就て（古道正進）、新調整実況調査_中部地方の新体制興行、新調整の推移_二回興行管見（森元治）/映画人の自覚 新調整実施一ヶ月の経過を見て（柴田芳男）、興行建設線_時間別興行のあれこれ（富田暎一）、国民学校児童非難訓練の模範、新劇映画_若き日の遊び/陣陣に咲く、新文化映画_軍神につづけ/ニッポンパンザイ/大型焼夷弾/女子青年隊の報告、六月の短篇_大東亜戦争までの世界/再起の泉/水泳読本/チユウ助の報恩、撃ちてしまふ週間移動映写運動総合経過報告_軍官民協力の輝かしい成果上（映画配給社普及部）、</p>	
<p>映公01-007（映画配給社資料） 映画配給社報 第10号</p> <p>発行所 社団法人映画配給社 1943.06.15 32p 表紙・裏表紙欠落</p> <p>内容細目 この月の強調事項_貯蓄強調週間の宣伝（大政翼賛会）/避難訓練に拍車をかけよう/戦時下興行場に於ける防空上の措置要綱（東京興行者協会）、映画劇場の休憩時間の利用法に就いて企劃を語る（安江四郎）、新配給問答 連載解説 その一（柴田芳男）、[新劇映画_]大陸新戦場/潜水艦西へ/マライの虎、マンガ紹介_闘ふ潜水艦/マー坊の落下傘部隊、短篇紹介_救急法/雪中鍛錬、[新劇映画_]男/暖き風、新文化映画_軍馬を護る/空襲と救護/上海海軍特別陸戦隊、第三回国民映画演劇脚本募集/第2回国民映画脚本入選発表（情報局）、撃ちてしまふ週間移動映写運動総合経過報告中（本社普及部）、各社新映画製作状況、社報子へ苦言を呈す、</p>	
<p>映公01-008（映画配給社資料） 映画配給社報 [第11号]</p> <p>発行所 奥付欠落 [号数は推定] 1943.07.01 [推定] 32p 表紙・裏表紙欠落</p> <p>内容細目 映画館 今月の覚え書_海の記念日/産業戦士の優待興行、映画館への便り_お礼とおねがひ（八並健一）、新配給問答 連載解説 その二（柴田芳男）、新配給体制用語、青少年向映画の観覧指導三（文部省）、映画劇場の休憩時間の利用法に就いて企劃を語る その二（安江四郎）、新劇映画_サヨンの鐘/名人長次郎/宮本武蔵 決闘般若坂、新文化映画_勝利への輸送/防毒救護/白茂線、「団体取扱ひ」をめぐる新調整を考へる_柴田芳男氏へ（有島史郎）/再び有島史郎氏へ（柴田芳男）、興行者の頁_お客様に叱られる（佐藤一志）/隣組映画の筋骨募集（大政翼賛会）、防空を映画で学ぶ会、撃ちてしまふ週間移動映写運動総合経過報告完（本社普及部）、各社新映画製作状況、フィルム事故報告、</p>	
<p>映公01-009（映画配給社資料） 映画配給社報 [第12号]</p> <p>発行所 奥付欠落 [号数は推定] 1943.07.15 [推定] 32p 表紙・裏表紙欠落</p> <p>内容細目 この月の強調事項_戦争生活の徹底を期しませう（大政翼賛会宣伝部）、映画の宣伝も前進せよ（筑紫義男）、新配給問答 連載解説 その三（柴田芳男）、青少年向映画の観覧指導四（文部省）、興行建設線_興行経費合理化への道（小野熊平）、「興行経費合理化への道」を読んで（岩垣保章）、興行者の頁_映画劇場人の感想（佐藤健三）、新文化映画_法隆寺/必勝への誓ひ/国語ハス、ム、楽しい短篇映画_女子籠球美/魚類の生活/戦ふ宣伝、新劇映画_誓ひの合唱/我が家の風、「ハワイ・マライ沖海戦」と観客動員数に就て、日本ニュース内容紹介 第155号-第159号、各社スター写真の配布について、国民映画普及会第二次映写会開催、</p>	

<p>映公 01-010 (映画配給社資料)</p> <p>映画配給社報 第 13 号</p> <p>発行所 社団法人映画配給社 1943.08.01 32p 表紙・裏表紙欠落</p> <p>内容細目 今月の強調事項_さあ!この月もがんばりませう(大政翼賛会)、興行場の防空待避を語る(鬼丸勝之)、興行人の精神 どうしたら事故を防げるか(林甚左衛門)、文部省推薦映画推薦理由_大陸新戦場/海軍戦記、フィルムは斯く護られる 興行人の決戦体制_清津映写技士常会より(山本金五郎)/駿遠映写技士常会を設立して(高橋清一)/常会への期待(関東支社技術課)、新配給問答 連載解説 その四(柴田芳男)、第八回文部省選定課外用映画/第八回文部省選定青年向映画、興行者の頁_映画劇場人の感想 その二(佐藤健三)、新劇映画紹介_花咲く港/急降下爆撃隊、新文化映画紹介_山に戦ふ、新短篇映画紹介_極地を尋ねて、フィルム事故報告、各社スター写真の配布に就いて、</p>
<p>映公 01-011 (映画配給社資料)</p> <p>映画配給社報 [第 15 号]</p> <p>発行所 奥付欠落 [号数は推定] 1943.09.01 [推定] 32p 表紙・裏表紙欠落</p> <p>内容細目 航空日特輯_決戦下の航空日を迎へて(山岸重孝)、防空と興行_空襲があつたら警報が出たら映画館はどうするか(林甚左衛門)、興行資材はこうして配給されます(山崎博章)、日本映画資材統制株式会社業務案内_興行資材の配給開始にあたって(羽田新三)/日本映画資材統制株式会社業務規定、もり上る決戦譜_週報 [プログラム]の表紙献納運動/戦ふ映画館の隣保態勢(岩佐一実、児玉兎造)/活躍する金沢市の映画常会(清谷博文)、航空日特輯 航空日映画に寄せて_「愛機南へ飛ぶ」推薦之辞(陸軍航空本部)/「決戦の上空へ」に寄せて(原田種寿)、航空日映画の紹介 新劇映画_愛機南へ飛ぶ/決戦の上空へ、新文化映画宣伝解説_北の健兵、航空日週間の文化映画紹介_生駒山滑空場/空征く少年通信兵、南方映画通信(田村幸彦)、興行建設線_続・われらの立場まがりくねつた航跡(三宅いはほ)、質疑応答欄、</p>
<p>映公 01-012 (映画配給社資料)</p> <p>映画配給社報 [第 17 号]</p> <p>発行所 奥付欠落 [号数は推定] 1943.10.01 [推定] 32p 表紙・裏表紙欠落</p> <p>内容細目 十一月の強調事項_十一月一日は司法記念日です お互に心を合せて力強い遵法運動を展開して下さい(司法省)、翼賛会掲示板の一層の御活用をねがふ(大政翼賛会宣伝部)、映画館経営特輯_入場税の話(小泉一男)、映画館経営によせて 興行の距離を語る(柴田芳男)、映画 [館] 経営の苦心を語る わたくしの暴言(柏戸福夫)、日本移動映写聯盟の結成なる 聯盟を中心に移動映写隊の新発足、松竹では先づ週報の統一を断行しました(月森仙之助)、日活では週報の廃止を断行 翼賛幻燈を起用 館内放送を実施しました(松屋政章)、国民必見映画特別公開「決戦の上空へ」"愛機南へ飛ぶ"を以て発足、新劇映画宣伝解説_進め独立旗/熱風、新文化映画_供米記/あなたの力 戦ふ日本第十四輯/愛馬譜/田植競争、普及会第一次の目標は徹せよ、二九〇万動員!(梅村)、興行資材の請求はこうして 配給品目の追加が発表されました(山崎博章)、フィルム事故報告、</p>
<p>映公 01-013 (映画配給社資料)</p> <p>映画配給社報 [第 18 号]</p> <p>発行所 奥付欠落 [号数は推定] 1943.10.15 [推定] 1-4,29-32 [?] 頁欠落</p> <p>内容細目 [入場税の話]第二章(小泉一男)、映画館経営特輯_映画経済の確立と興行経費の在り方(岩垣保章)/従業員の指導へ私の思ひつきから(浜田一雄)、新文化映画_水防/武蔵野に鍛ふ 陸軍少年通信兵学校の記録、新劇映画_無法松の一生/仮面の舞踏、楽しい短篇映画_山に鍛へよ/独逸に於ける勤労祭/仔馬の行方、興行と防空_警戒警報発令下に於ける興行の休止問題をめぐつて(渡辺肇)/避難訓練私考 都心劇場の備へは固し(金子操)、南方映画工作の構想(林文三郎)、続新配給問答、</p>
<p>映公 01-014 (映画配給社資料)</p> <p>映画配給社報 [第 19 号]</p> <p>発行所 奥付欠落 [号数は推定] 1943.11.01 [推定] 32p</p> <p>内容細目 この月の強調事項_郵便年金普及強調運動に御協力下さい、文化映画特輯_文化映画の意義 優秀作品の出現をまつ(松浦晋)/文化映画を軽視するな 今後の製作、上映に期待(筑紫義男)/文化映画と興行 実行と提唱への私見(佐藤滝治)/文化映画への抱負 上映法と宣伝法(橋本昇)/文化映画上映への苦心談 すべては工夫と訓練に(尾崎元喜)/映画界の殊勲 原作者の立場から(安田日出男)、劇映画紹介_母の記念日/重慶から来た男、文化映画紹介_北の兵隊/勝つために/春に備へて、映画館-決戦態勢の強化へ(新井静一郎)、映画館の電力使用制限に就いて(伊賀秀雄)、映画館経営特輯_入場税の話 終章(小泉一男)、質疑応答の頁_映画単週興行への疑問(岩佐一実)/敵前革新を前にして(柴田芳男)、第九回文部省選定課外用映画/第九回文部省選定青年向映画、</p>

映公 01-015 (映画配給社資料)
映画配給社報 [号数不明断片]
発行所 1-8 頁のみ
内容細目 地方都市番線順位決定方法をめぐりて (宮崎滝造)。
映公 01-016 (キネマ旬報社調査部資料)
大日本活動写真協会調査月報 1937年1月 第3巻第1号
発行所 大日本活動写真協会 1937.01.31 編輯発行兼印刷人: 桑野正夫 23,9丁
内容細目 生フィルム関税改正がわが映画界に及ぼす影響如何 五大会社だけでも二十万円違ふ。プラーゲ嵐の晴雲解消 明朗化された文芸映画界。内憂外患の非常時に対処すべき映画界の諸方策 封切十日前の検閲申請実施はこれだけの冗費を節減出来る。スクラップ・ブック 一月の巻 経営方面 日本映画の不振と人的要素の欠陥 (本間賢治、キネマ旬報1月11日号より) / 製作方面 その一 撮影前に十分な準備期間を望む (西鉄平、報知「赤旗青旗」より) / 製作方面 その二 素材の行詰りと産業部門の開拓 (田中重雄、報知「赤旗青旗」より) / 製作方面 その三 邦画の国際化と技術の向上を計れ (小津安二郎 [ママ]、報知「赤旗青旗」より) / 製作方面 その四 技術家を養成する官立の研究機関を設立せよ (岸田国土、日本映画「邦画の水準について」より) / 一般批判 国辱的輸出映画 国際協会の「現代の日本」(文芸春秋2月号より)。
解説 桑野正夫の肝煎りで発足した大日本活動写真協会は、内務省に映画検閲を統一するよう要望した業界団体で、日活・松竹・新興キネマ・大都映画の四社 (のうち極東キネマ、全勝キネマを加え六社) よりなる。1937年に新勢力の東宝ブロックが抬頭して以降は東宝との対立姿勢を鮮明にしたが、映画法施行後の戦時体制の強化とともに1940年、業界統一の大日本映画事業聯合会に発展的に解消された。編輯発行人の桑野正夫は桑野桃華の筆名をもつ映画ジャーナリストで、『探偵小説ジゴマ』(1913年)の翻訳や映画通信の草分けとして『東京演芸通信』などを発行していた。
映公 01-017 (キネマ旬報社調査部資料)
大日本活動写真協会調査月報 1937年2月 第3巻第2号
発行所 大日本活動写真協会 1937.02.28 編輯発行兼印刷人: 桑野正夫 40,7丁
内容細目 映画産業の発達と現況 [1937年8月2日より1週間、東京で開催予定の「世界教育会議」に提出する目的で作成された資料]。映画教育の普及過程と小型映画の分布現況。スクラップ・ブック 二月の巻 製作方面 その一 先づ撮影所内の機構を改善しろ (高橋歳雄、報知「赤旗青旗」より) / 製作方面 その二 映画統制と文化映画への助成 (東隆史、報知「赤旗青旗」より) / 一般批判 その一 文化映画の輸出問題と恐るべき「外国通」の有害 (大宅壮一、日本評論「文化勲章と文化輸出」より) / 一般批判 その二 名優が出て… 映劇 [演劇] は向上しない 企業の形式改組が必要 (千葉昭、都新聞「速射砲」より) / 一般批判 その三 映画の価値を半減するタイアップ広告のセリフ (都新聞「補助椅子」より) / 一般批判 その四 外人に侮えられた「新しき土」の道徳的恥辱 (長谷川如是閑、改造「聴は語る」より)。
解説 表紙に「キネマ旬報社調査部 保存用」印あり、図書分類番号「42-37-2」。
映公 01-018 (キネマ旬報社調査部資料)
大日本活動写真協会調査月報 1937年3月 第3巻第3号
発行所 大日本活動写真協会 1937.03.31 編輯発行兼印刷人: 桑野正夫 25,8丁
内容細目 国産映画の振興ともなりお客も業者も儲かる「映画報国富籤案」の提唱。此れで儲かるとは摩訶不思議! 謎は何処に? [映画製作費、観覧料金問題]。国際映画事務局機関誌「インター・フィルム」より。スクラップ・ブック 三月の巻 経営方面 邦画の優秀性の高揚 喜ぶべき洋画館上映の企図 (改造「映画界寸評」より) / 製作方面 その一 輸出映画に於ける企劃の根本的誤謬 (長谷川如是閑、日本映画「映画の国際政策」より) / 製作方面 その二 市民的物語より政治的映画を欲する (鷲見生、朝日新聞「鉄箒」より) / 製作方面 その三 旧殻打破と社会輿論の映画化 (清瀬英次郎、報知「赤旗青旗」より) / 一般批判 その一 邦画の海外進出と海外上映法の統制 (文芸春秋「映画欄」より) / 一般批判 その二 俳優の異動は大した影響はない (日本評論「映画の頁」より) / 一般批判 写真より雰囲気を奪ふ伯林の一流常設館 (橋爪檳榔子、都新聞「伯林の映画風景」より)。
解説 表紙に「キネマ旬報社調査部 保存用」印あり、図書分類番号「42-37-3」。
映公 01-019 (キネマ旬報社調査部資料)
大日本活動写真協会調査月報 1937年4月 第3巻第4号
発行所 大日本活動写真協会 1937.04.30 編輯発行兼印刷人: 桑野正夫 23,7丁
内容細目 諸物価の昂騰は映画界にどう響くか 最近五ヶ年間の常設館入場数と物価並に労銀指数との比較。断然娯楽施設の群を抜くアメリカの映画常設館。娯楽映画の傾向と与へられたる社会的要求。スクラップ・ブック 四月の巻 一般批判号「大坂夏の陣」と「良人の貞操」問題にならぬ横綱と十両の相撲 (日本評論「映画欄」より) / 松竹、東宝の芸術に対する熱情の相違 (古本明光、中央公論「興行戦線異状あり」より) / 先づ内部の明朗化が騒動根絶の鍵 (東松源平、日本評論「映画界の泥試合」より) / 手離しても惜しいやうな俳優が果してゐるか? (式場隆三郎、都新聞「春先の視野」より) / 「大坂夏の陣」を賞す 日本の映画界も特作主義で進む可きだらう (コロムビア映画社外国部長サイドルマン、都新聞) / 引抜かれる俳優は

	宛ら競技用具の如し（平林たい子、読売新聞「映画俳優の引拔戦」より）/ 娯楽雑誌と映画との関係（戸坂潤、日本評論「女の立場、男の立場」より）。
解説	表紙に「キネマ旬報社調査部 保存用」印あり、図書分類番号「42-37-4」。
映公 01-020	（キネマ旬報社調査部資料）
	大日本活動写真協会調査月報 1937年6月 第3巻第6号
発行所	大日本活動写真協会 1937.07.31 [ママ] 編輯発行兼印刷人：桑野正夫 1,28,12丁
内容細目	巻頭言、引拔戦に浪費されたこの驚くべき数字を見よ！しかも会社は儲けて居らぬ。六月一日現在に於ける六社対東宝系常設館の現況、スクラップ・ブック 六月の巻_製作方面 日本映画の進むべき路 観客は何を求めてゐるか？（大森義太郎、報知「映画時評」より）/ 経営方面 入場料は高くてもいゝから高級な映画と常設館が欲しい（海野十三、報知「赤旗青旗」より）/ 政策方面 日本映画貧困の打開策として映画の交換貿易制度を提唱す（木口君夫、日本映画「読者評壇」より）/ 東西両映画人の見た欧米と日本の映画界_駄作映画の輸出は国辱（新興キネマ取締役 山崎修一、朝日新聞）/ 予想以上進歩してゐる日本の映画界（コロンビア外国宣伝部長 サイデルマン、都新聞）/ 海外情報 米映画界の転向 悲劇物より朗らか物へ（都新聞）。
解説	表紙に「キネマ旬報社調査部 保存用」印あり、図書分類番号「42-37-6」。
映公 01-021	（キネマ旬報社調査部資料）
	大日本活動写真協会調査月報 1937年7月 第3巻第特7号
発行所	奥付なし 121丁
内容細目	松竹株式会社邦画部所属映画館調査表 昭和12年6月1日現在、新興キネマ株式会社所属映画館調査表 昭和12年6月1日現在、日本活動写真株式会社所属映画館調査表 昭和12年6月1日現在、大都映画株式会社所属映画館調査表 昭和12年6月1日現在、極東キネマ株式会社所属映画館調査表 昭和12年6月1日現在、全勝キネマ株式会社所属映画館調査表 昭和12年6月1日現在、東宝映画配給株式会社所属映画館調査表 昭和12年6月1日現在。
	表紙に「キネマ旬報社調査部 保存用」印あり、図書分類番号「42-37-7」。
映公 01-022	（キネマ旬報社調査部資料）
	大日本活動写真協会調査月報 1937年8月 第3巻第8号
発行所	大日本活動写真協会 1937.08.31 編輯発行兼印刷人：桑野正夫 44,11丁
内容細目	六社聯盟対東宝の抗争は映画界に何を齎らしたか、内部の統制と覆轍禍への戒め、最近に於ける代表都市映画観客状態、昭和十二年上半期業界カレンダー、スクラップ・ブック 八月の巻_経営方面 質的向上に準拠した真の合理化が欲した（村山知義、改造「日本映画の製作機構」より）/ 一般批判 何故東宝系の映画には佳作が出来ないのか（日本評論「映画欄」より）/ 経営の合理化と同時に作品にも合理化が必要だ（文芸春秋「映画欄」より）/ 低下した東宝系の映画（東京日日新聞「自由席」より）/ お話しにならぬ近頃の作品の愚醜（文芸春秋「映画欄」より）/ 中国人の見た日本映画観（キネマ旬報より）。
解説	表紙に「キネマ旬報社調査部 保存用」印あり、図書分類番号「42-37-8」。
映公 01-023	（キネマ旬報社調査部資料）
	大日本活動写真協会調査月報 1937年9月 第3巻第9号
発行所	大日本活動写真協会 1937.09.30 編輯発行兼印刷人：桑野正夫 41,14丁 折込2枚
内容細目	軍事映画製作に必要な軍機保護に関する知識 憲兵隊の映画検閲方針、本年上半期に於ける四社と東配の製作比較 東配全プロは前途遠、ニュース映画劇場の簇出と興行戦線に躍るニュース映画、スクラップブック 九月の巻_経営方面 日本映画の基本的欠陥（岩崎昶、読売新聞「現代に欠けたもの」より）/ 製作方面 其の一 現在の製作機構と各社の特異性に就て（北川冬彦、文芸春秋「日本映画論」より）/ 製作方面 其の二 引抜きと映画企業（島津保次郎、報知「赤旗青旗」より）/ 製作方面 其の三 製作条件提出（篠山克己、報知「赤旗青旗」より）。
解説	表紙に「キネマ旬報社調査部 保存用」印あり、図書分類番号「42-37-9」。
映公 01-024	（キネマ旬報社調査部資料）
	大日本活動写真協会調査月報 1937年10月 第3巻第10号
発行所	大日本活動写真協会 1937.10.30 編輯発行兼印刷人：桑野正夫 34,12丁
内容細目	映画著作権、興行権の確立に関する新機運に就て、戦時体制下に於ける映画製作に関する方針に就て 関係当局との懇談内容、生フィルム飢饉に処する映画企業の重要観点、フィルム輸入統制とニュース映画の輸出状態、スクラップ・ブック 十月の巻_輸入統制を繞る映画界の非常時（文芸春秋「映画欄」より）/ 行詰ったニュース映画今のうちに局面打開を計れ（日本評論「映画欄」より）/ 戦争映画とニュース映画（話「映画界の巻」）/ 映画館の男女席撤廃について（平林たい子、読売新聞「女の立場から」より）/ 日本評論「国際ページ」より。
解説	表紙に「キネマ旬報社調査部 保存用」印あり、図書分類番号「42-37-10」。

映公 01-025 (キネマ旬報社調査部資料)
大日本活動写真協会調査月報 1937年11月 第3巻第11号
発行所 大日本活動写真協会 1937.11.31 編輯発行兼印刷人: 桑野正夫 26,9丁
内容細目 戦時体制下に於ける興行街は淋れるか、榮へるか 日露戦役当時の事情調査、世界大戦当時の映画興行界はどうだった、スクラップ・ブック十一月の巻_製作者はシナリオをもつと尊重すべし(中村武羅夫、キネマ旬報「映画とシナリオの位置」より) / 自縄自縛に苦しむドイツの映画統制(岩崎視、キネマ旬報「各国の映画統制」より) / 一考を要する輸出事変ニユース(都新聞「アメリカ通信」より) / 一本立興行制度を迅速に確立せよ(文芸春秋「映画欄」より)。
解説 表紙に「キネマ旬報社調査部 保存用」印あり、図書分類番号「42-37-11」。
映公 01-026 (キネマ旬報社調査部資料)
大日本活動写真協会調査月報 1937年12月 第3巻第12号
発行所 大日本活動写真協会 1937.12.31 編輯発行兼印刷人: 桑野正夫 32,7丁 折込2枚
内容細目 警視庁興行取締規則改正に就て、軍機保護法の改正と俯瞰撮影の禁止に就て、テレビジョンの近況、スクラップ・ブック十二月の巻_漸く認識した映画の宣伝力(文芸春秋「映画欄」より) / 無節操の俳優には自作の上演は許さぬ(菊池寛「話の塵」より) / 呆れ果てた活動屋の中着切り(日本評論「映画欄」より) / 慎重を要する文化聯盟の日本紹介映画(新居格、東京日日新聞より) / 現代もより時代もがすぐれてゐる日本映画(ロバート・フロレーイ、都新聞より)。
解説 表紙に「キネマ旬報社調査部 保存用」印あり、図書分類番号「42-37-12」。
映公 01-027
映画人 第3号 1939年9月号 全日本映画人聯盟機関紙
発行所 全日本映画人聯盟 1939.09.15 編輯兼発行人印刷人: 青山敏夫 16p
内容細目 映画と新喜劇(永見隆二)、音と演技(夏川大二郎)、夢 多少感傷的に(吉村公三郎)、思ひ出すまゝ(如月敏)、関西映画人美術展、満映日より(堀保治)、カメラマンの新しい道、土と兵隊現地ロケ 露出に就て 第一部報告(伊佐山三郎)、時代劇映画撮影の特殊性(興吉宥、近藤憲昭)、小津小石監督歓迎会、歴史映画と地方性(八尋不二)、何を作らうか(小野登)、朝鮮映画は蘇る 八木保太郎氏の渡鮮談(清水[敏夫]記)、美協から各協会に物を聞く座談会(宮島義勇、永見隆二、笠原良三、関川秀雄、徳光寿夫、小杉勇、渡辺[竹二郎]、松山[崇]、久保[一雄]、樋野[正明]、金須[孝]、江坂[実]、植田[寛]、仲[美喜雄]、進藤[誠吾]、丸茂[孝])、映画人マイク_映画人聯盟 / 映画美術監督協会 / 映画監督協会 / 映画作家協会 / カメラマン協会 / 映画俳優協会 / 映画助監督協会、関西版_映画人の余技 / 関西事務局日誌、映画人動静録。
解説 映画人の同業団体を結集して1939年6月に創立された全日本映画人聯盟は、日本映画監督協会・日本映画作家協会・日本映画カメラマン協会(のちに文化ニュースカメラマン協会と合併し日本映画撮影者協会となる)・日本映画俳優協会・日本映画美術監督協会・日本映画助監督協会が加盟、のちに日本映画録音技術者協会・日本映画照明者協会・日本映画現像技術者協会が加わり9団体からなる聯盟となった。機関紙『映画人』も創立年の1939年7月15日に発行された。終刊は1941年2月。
映公 01-028
映画人 第4号 1939年10月号 全日本映画人聯盟機関紙
発行所 全日本映画人聯盟 1939.10.15 編輯兼発行人印刷人: 青山敏夫 20p 1-2頁欠
内容細目 映画法実施に際して、解説 映画法細則を説明する(清水[敏夫]記)、[以上、欠落頁] 映画法実施記念 墓参の記(北川[鉄夫])、映画功労者の表彰式 映画人の荣誉、大日本映画協会の映画法記念事業、芸術至上主義と能率至上主義(三好十郎)、シナリオと演出 断片的に(成瀬巳喜男)、映画の視覚美に就いて(江坂実)、フォト・メモ寸言(伊藤大輔)、撮影助手協会の成立を紹介す(碧川道夫)、特輯 女人新生_「女らしい」生活(森山季子) / 女性の立場(鈴木紀子) / 女を縛るもの(厚木たか)、映画人動静録、守旧期自覚(菅井一郎)、映画青年の怪気煽 マイク征服の話(浅田健三)、関西版_関西各協会の研究活動始る、パ社俳優学校時代の想ひ出(大川平八郎)、山中貞雄一周忌記(藤井滋司)、地平線報告 満羅ロケーション(永貞二郎、松井鴻)、映画人マイク_映画人聯盟 / 映画作家協会 / 映画俳優協会 / 映画美術監督協会 / 映画監督協会 / 映画助監督協会 / カメラマン協会、編輯卓。
映公 01-029
オームクリューガー パンフレット
解説 ドイツ映画『世界に告ぐ』Ohm Krüger(監督ハンス・シュタインホフ、主演エミール・ヤニングス、製作1941年、日本公開1943年)の公開に際してドイツで日本語により出版されたもの。48p。奥付には「エミルヤニングス映畫『オームクリューガー』の全世界上映に際して」「トービス映畫會社特約印刷所発行」とあり、「此の印刷物は六ヶ國語に翻譯される」とされ、日本語翻訳者として湯浅初江、篠原生の名が記されている。

映公 01-030 同盟通信 映画 第 2441 号 - 1942.09.07 1p 通しの頁数：p432 内容細目 昭和 17 年自 4 月至 8 月封切映画一覧表上 解説 1942 年 4 月第 1 週より映画配給社による統一配給・紅白二系統が実施された。
映公 01-031 同盟通信 映画 第 2442 号 - 1942.09.08 1p 通しの頁数：p437 内容細目 昭和 17 年自 4 月至 8 月封切映画一覧表下
映公 01-032 同盟通信 映画 第 2502 号 - 1942.11.07 1p 通しの頁数：p685 内容細目 昭和 17 年 10 月封切映画一覧表
映公 01-033 同盟通信 映画 第 2532 号 - 1942.12.07 1p 通しの頁数：p817 内容細目 昭和 17 年 11 月封切映画一覧表
映公 01-034 同盟通信 映画 第 2553 号 - 1942.12.28 1p 通しの頁数：p910 内容細目 昭和 17 年 12 月封切映画一覧表
映公 01-035 同盟通信 映画 第 2585 号 - 1943.01.29 1p 通しの頁数：p118 内容細目 昭和 18 年 1 月封切映画一覧表

2. スクラップブック

映公 02-001 新聞切抜 1941 年 映画界一般（娯楽・製作界・文化映画・他） 解説 背表紙に「昭和十六年度 日刊新聞切抜 其ノ一」とある。対象年月は 1941 年 1 月～12 月、対象新聞は、東京朝日新聞、読売新聞、大阪毎日新聞、東京日日新聞、中外商業新報、都新聞、国民新聞、やまと新聞、報知新聞、富士スタジオ通信、等。分類事項（タックインデックス）は、娯楽、業界=松竹・日活・新興・東宝・大都・各社、洋画界、興行 [日本劇場の李香蘭事件、映画館のアトラクション全廃、ほか]、製作界=松竹・日活・新興 [新興文化映画部の陣容拡大]・東宝・大都・各社、文化映画 [報知連載「文化映画製作の苦心」]「ニュース映画製作の苦心」、文化映画作品。1941 年の重大事項として映画会社の統合が問題となった。
映公 02-002 新聞切抜 1941 年 映画界一般（内務省・映画法・朝鮮・他） 解説 背表紙に「昭和十六年度 日刊新聞切抜 其ノ二」とある。対象年月は 1941 年 1 月～12 月、対象新聞は、中外商業新報、東京朝日新聞、毎夕新聞、読売新聞、国民新聞、東京日日新聞、大阪毎日新聞、都新聞、やまと新聞、報知新聞、中央新聞、同盟通信、等。分類事項（タックインデックス）は、[内務省=検閲]、文部省、各省、官公映画、大日本映画協会、情報局、翼賛会 [日本移動文化協会設立趣意書]、[諸団体=国際文化振興会、映画宣伝美術協会、全国独立映画興行者協会会報]、移動文化 [日本移動文化協会、農山漁村文化協会]、映画法、映画科学、技術・技師、生フィルム、十六ミリ、朝鮮 [田坂具隆氏に半島映画を訊く]、台湾 [サヨンの鐘]、満洲 [満洲映画界を語る（武藤富男）]、中華 [大東亜戦と北支映画界（吉村操）]、南洋 [蘭印の土民映画（高見順）、カメラマンの見た仏印の現地報告（山根正吉）]、海外進出、海外通信 [独乙の映画と演劇を語る（菅原太郎、遠藤慎吾、林文三郎、筈見恒夫）]、監督・俳優 [芸名追放令]、劇団 [第一劇団、全日本自由契約映画俳優協会所属会員一覧]、雑 [森一生、渋谷実、上田広、大谷竹次郎、斎藤寅次郎、早坂文雄、山本嘉次郎、田坂具隆、吉村公三郎、豊田四郎、伊丹万作、稲垣浩、島津保次郎、北川冬彦、等]、雑報 [芸能文化聯盟・都新聞社主催 芸能文化展覧会出品目録]、日本映画雑誌協会 [映画新体制展覧会]。

映公 02-003	新聞切抜 1942年 映画界一般（娯楽・映画政策・映画法・他）
解説	背表紙に「新聞切抜 昭和十七年」の紙を添付。対象年月は1942年1月～12月、対象新聞は、都新聞、東京朝日新聞、やまと新聞、国民新聞、読売新聞、大阪毎日新聞、中外商業新報、報知新聞、東京日日新聞、東京新聞、合同新聞、大阪朝日新聞、日本産業報国新聞、等。分類事項（タックインデックス）は、娯楽、映画政策〔南方進出への文化政策 指導的な映画へ（熊谷久虎）〕、映画法、情報局〔大東亜映画会議、国民映画、企画審議会、情報局第五部長川面隆三〕、内務省〔映画興行動態調査〕、文部省〔複製再上映調査報告、動く映画教室〕、各省、大日本映画協会、翼賛会、諸団体〔日本映画監督協会解散、日本映画機械協会設立〕、製作界、東宝、松竹、大日本製作〔大映創立〕、日本映画社、文化映画〔文化映画統合問題〕。
映公 02-004	新聞切抜 1942年 映画界一般（配給界・興行界・他）
解説	対象年月は1942年1月～12月、対象新聞は、都新聞、東京朝日新聞、やまと新聞、国民新聞、読売新聞、大阪毎日新聞、中外商業新報、報知新聞、東京日日新聞、東京新聞、大阪朝日新聞、芸能日日新聞、等。分類事項（タックインデックス）は、配給界〔映画配給社〕、文化映画配給、ニュース配給、興行界、興行会社〔日活〕、映画館、官公・特殊、文化映画作品、洋画界〔東和商事解散、外国映画株式会社設立〕、巡回映写、映画科学、機材〔フィルム愛護運動〕、技術、映写〔女性映写技士〕、小型〔十六ミリ〕。
映公 02-005	新聞切抜 1942年 映画界一般（朝鮮・台湾・満洲・他）
解説	対象年月は1942年1月～12月、対象新聞は、都新聞、東京朝日新聞、やまと新聞、国民新聞、京城日報、読売新聞、大阪毎日新聞、中外商業新報、報知新聞、東京日日新聞、東京新聞、等。分類事項（タックインデックス）は、朝鮮、台湾、満洲、中華、南洋〔南洋映画協会、陸軍南方派遣軍資料班・小出英男報告、ボルネオの映画館、南方映画工作、比島の映画工作（今日出海）〕、海外通信〔アメリカ、ソ連、ドイツ〕、技能者・劇団、アトラクション、雑信、雑〔連載「真剣に言ふ」（八木保太郎、島耕二、碧川道夫、北川冬彦）、映画宣伝謀略戦〕、日本映画雑誌協会〔日本映画の歌当選発表、ベストテン〕。
映公 02-006	映画雑誌切抜 1941年～1942年 映画界一般（『映画旬報』他）
解説	雑誌『映画旬報』の切抜記事をファイル（ほか『映画技術』『映画之友』『映画評論』『ダイヤモンド』等もある）。対象年月は1941年1月～1942年12月。分類事項（タックインデックス）は、1942年度分が、情報局、内務省、文部省、翼賛会、各省、大日本映画協会、事業商社=雑・東宝・大映・新興・日活・松竹、日本映画社、文化映画社、配給社、外画会社、〔日活・新興〕、日活興業、ニュース映画、アトラクション、宝塚劇場、映画法、推薦、非一般、検閲、認定文化、技能審査、教科用映画、文化映画、製作界、興行界、映画館、移動文化、海外進出、映画人聯盟、興行者協会、雑誌協会〔関連新聞記事もあり〕、団体・組合、撮影者協会、養成所、機材、事業抄、人事消息、新刊紹介、朝鮮、台湾、満洲、華北、中華、南洋、〔製作会社=東宝・松竹・大映〕、雑信。1941年度分が、事業抄、人事消息、事業商社=雑・東宝・日活・松竹・新興・大都・南旺・興亜・大宝・東宝、洋画界、興行界、映画館、製作界、映画法、検閲、推薦、非一般、文部省、各省、情報局、翼賛会、大日本映画協会、団体・組合、移動文化隊、技能審査、俳優学校、映画会館、文化映画、認定文化、ニュース映画、機材、朝鮮、満洲、台湾、中華、海外進出、雑信、新刊紹介、〔製作会社=松竹・東宝・日活・新興・東京発声・大都・大宝・全勝〕。
映公 02-007	映画雑誌切抜 1943年 映画界一般（『映画旬報』）
解説	雑誌『映画旬報』の切抜記事をファイル。背表紙に「時報」の記載あり。対象年月は1943年1月～12月。分類事項（タックインデックス）は、業事抄、事業商社、雑、東宝、松竹、大映、情報局、内務省、文部省、各省、翼賛会、推薦、検閲、非一般、映画法、大日本映画協会、日本映画社、文化映画社、外画会社、団体・組合、映画教育、〔移動映写〕、配給社、興行界、映画館、興行者協会、日活興行、製作界、文化映画作品、認定文化、ニュース映画、教科用映画、撮影者協会、養成所、アトラクション、〔映画資料〕、人事消息、雑信、朝鮮、台湾、満洲、中華、華北、南洋、洋画界、雑誌協会、〔東京宝塚〕。
映公 02-008	新聞切抜 1943年 映画界一般（配給界・興行界・他）
解説	表紙に「日刊新聞切抜 昭和十八年」、背表紙に「新聞切抜 昭和十八年」の記載あり。対象年月は1943年1月～12月、対象新聞は、東京新聞、日本産業経済新聞、毎日新聞、読売報知、東京朝日新聞、大阪毎日新聞、信濃毎日新聞、等。分類事項（タックインデックス）は、配給界、興行界、興行会社、映画館、官公・特殊、文化映画作品、洋画界、巡回映写、映画科学、機材、技術、映写、娯楽、映画政策〔「弾丸か玩具か・映画座談会」（中村武羅夫、佐生正三郎、波多野敬三、伊奈信男、今村太平）、大東亜映画の確立（沢村勉）、映画界の古さ（今日出海）〕、映画法、情報局、内務省、文部省、各省、大日本映画協会、翼賛会、諸団体、製作界、試写会、東宝、松竹、大映、日本映画社、文化映画、朝鮮、台湾、満洲、中華、南洋、海外通信、国際交流、技能者・劇団、アトラクション、雑信、雑〔新人監督二人颯爽登場 黒澤明・木下恵介、映画と台本（森本薫）〕、日本映画雑誌協会。

映公 02-009
新聞切抜 1940年～1942年 映画批評 日活系
解説 背表紙に「其の一 映画批評 日活」の記載あり。対象年月は1940年12月～1942年3月、対象新聞は、やまと新聞、都新聞、報知新聞、読売新聞、毎夕新聞、国民新聞、東京日日新聞、中外商業新聞、等。対象作品は、右門江戸姿、神楽麿香猫、山高帽子、母系家族、山岳武士、伊達大評定、幸福の鏡、剣光桜吹雪、明暗二街道、天兵童子、海の見える家、海を渡る祭礼、潜水艦1号、柳生月影抄、英雄峠、愛の一家、姿なき復讐、薩摩の密使、電撃二重奏、世紀は笑ふ、別離傷心、江戸最後の日、次郎物語、将軍と参謀と兵。
映公 02-010
新聞切抜 1941年～1942年 映画批評 松竹系
解説 背表紙に「其の一 映画批評 (松竹系)」の記載あり。対象年月は1941年1月～1942年3月、対象新聞は、やまと新聞、都新聞、報知新聞、読売新聞、大阪日日新聞、大阪毎日新聞、国民新聞、東京日日新聞、中外商業新聞、等。対象作品は、東京の風俗、みかへの塔、芸道一代男、東京から来た武士、戸田家の兄妹、歌女おぼえ書、十日間の人生、振袖御殿、花は偽らず、脂粉追放、元気で行くよ、行き合ふ人達、団栗と椎の実、暁の合唱、花、碑、誓、鷺ノ王峠、桜の国、家族、元禄忠臣蔵後篇、三人姉妹、迎春花。
映公 02-011
新聞切抜 1942年～1943年 映画批評 松竹系
解説 背表紙に「映画批評 (松竹系) (二)」の記載あり。対象年月は1942年4月～1943年12月、対象新聞は、報知新聞、東京日日新聞、国民新聞、中外商業新報、都新聞、読売新聞、東京朝日新聞、名古屋新聞、九州日日新聞、やまと新聞、大阪朝日新聞、東京新聞、満洲日日新聞、日本産業経済新聞、読売報知、等。対象作品は、人間同志、父ありき、間諜未だ死せず、高原の月、母子草、日本の母、兄妹会議、誓ひの港、すみだ川、南の風、鳥居強右衛門、美しき横顔、続南の風、或る女、女の手、二人姿、京洛の舞、幽霊大いに怒る、開戦の前夜、ふるさと風の風、戦ひの街、家に三男二女あり、敵機空襲、家、むすめ、暖き風、サヨンの鐘、花咲く港、北方に鐘が鳴る、愛機南へ飛ぶ、仮面の舞踏、母の記念日、生きてゐる孫六、海軍「連載「特輯」海軍」研究」(飯田心美、水町青磁、五所平之助、島津保次郎、円谷英二、清閑寺健)、海賊旗吹っ飛ぶ、坊ちゃん土俵入。
映公 02-012
新聞切抜 1941年～1942年 映画批評 東宝系
解説 背表紙に「映画批評 (東宝系)」の記載あり。対象年月は1941年1月～1942年5月、対象新聞は、やまと新聞、都新聞、報知新聞、読売新聞、大阪日日新聞、大阪毎日新聞、国民新聞、東京日日新聞、中外商業新聞、等。対象作品は、昨日消えた男、時の花形、兄の花嫁、馬、家光と彦左、白鷺、阿波の踊子、解決、歌へば天国、虞美人草、上海の月、闘魚、雪子と夏代、指導物語、八十八年目の太陽、川中島合戦、男の花道、希望の青空、白い壁画、若い先生、緑の大地、待つて居た男、南から帰った人、南海の花束。
映公 02-013
新聞切抜 1941年 映画批評 新興系
解説 背表紙に「其の一 映画批評 (新興)」の記載あり。対象年月は1941年1月～1941年12月、対象新聞は、やまと新聞、都新聞、報知新聞、読売新聞、大阪日日新聞、大阪毎日新聞、国民新聞、東京日日新聞、中外商業新聞、等。対象作品は、罪なき町、落花の舞、母代、裸一貫、初春娘、花嫁隠密、牛若丸、南国絵巻、新生の歌、鉄火くるま、明け行く土、孤城の桜、母の姿、猛獣使ひの姉妹、鉄の花嫁、夫婦太鼓、雲雀は空に、愛の砲術、大都会、娘旅芸人、母の灯、旋風街、阿修羅姫、花丸小鳥丸、葉隠大名、新門辰五郎、北極丸、春星夫人、紅葉狩、嵐の中の乙女、太陽先生、舞ひ上る情熱、直参風流男。
映公 02-014
新聞切抜 1941年～1942年 映画批評 大都系
解説 背表紙に「映画批評 (大都系)」の記載あり。対象年月は1941年1月～1942年2月、対象新聞は、やまと新聞、都新聞、報知新聞、読売新聞、大阪日日新聞、大阪毎日新聞、国民新聞、東京日日新聞、中外商業新聞、等。対象作品は、我ら起たむ、柘榴一角、日柳燕石、女人一路、お小夜悲願、十一人の顔、逢初峠、見世物船、曉雲武蔵ヶ原、風雲、鞍馬天狗 雨中の騎士、鞍馬天狗 銀河の美女、天下の糸平、愛憎乱麻、火花の舞、五人の看護婦、南国回天記、母と戦場、決戦般若坂。
映公 02-015
新聞切抜 1940年～1941年 映画批評 洋画
解説 背表紙に「映画批評 (洋画)」の記載あり。対象年月は1940年12月～1941年9月、対象新聞は、やまと新聞、都新聞、報知新聞、読売新聞、大阪日日新聞、大阪毎日新聞、国民新聞、東京日日新聞、中外商業新聞、毎夕新聞、等。対象作品は、故郷、若い科学者、美の祭典、シーホーク、想ひ出の円舞曲、銀の靴、心の青春、大紐育、空往かば、砂塵、消え行く灯、青春、勝利の歴史、白鳥の死、邂逅 [めぐりあひ]、ムッソリニア、明日への戦ひ、ジェロニモ、夜のタンゴ、若い科学者、七つ擲る、青い征服、偉人エーリッヒ博士、世界の涯てに、人間エザソン。

映公 02-016	新聞切抜 1941年 映画批評 東京発声・その他
解説	<p>背表紙に「製作 児童映画」の記入あり。対象年月は1941年2月～1941年12月、対象新聞は、報知新聞、国民新聞、都新聞、東京朝日新聞、東京日日新聞、読売新聞、等。対象作品は、大地に祈る（東京発声）、流旅の人々（南旺）、男子有情（大宝）、結婚の生態（南旺）、維新前夜（大宝）、女学生記（東京発声）、秀子の車掌さん（南旺）、家なき天使（高麗映画）、わが愛の記（東京発声）、君と僕（朝鮮軍報道部）、元禄忠臣蔵 前篇（興亜映画）。末尾に児童映画に関する切抜あり。</p>
映公 02-017	新聞切抜 1937年 映画批評 日本映画
解説	<p>背表紙に「日・批 1 12.3—12.12」の記載あり。対象年月は1937年3月～1937年12月、対象新聞は、都新聞、東京朝日新聞、中外商業新報、読売新聞、国民新聞、中央新聞、報知新聞、等。対象作品は、青春部隊、丹下左膳 愛憎魔劍篇、母校の花形、大坂夏の陣、良人の貞操 前篇、浅野内匠頭、黒変黒手組、旅路、朱と緑、良人の貞操 後篇、丹下左膳 完結咆吼篇、女よ男を裁け、故郷、女医絹代先生、男は度胸、夜の鳩、裸の町、熊の唄、日本女性読本、旅の陽炎、奥様に知らずべからず、吉田御殿、幸福の素顔、金色夜叉、真実一路 前篇、宮本武蔵 風の巻、宮本武蔵 地の巻、愛恋峡、仰げば尊し、悦ちゃん乗り出す、雪崩、南風薩摩歌、恋も忘れて、浄婚記 前篇、浄婚記 後篇、東海道は日本晴、白薔薇は咲けど、エノケンのちゃつきり金太 前篇、婚約三羽鳥、土屋主税、お嬢さん、仇討天下茶屋、恋山彦、人生の初旅、女性の勝負、女の償ひ、南国太平洋記、恋山彦 後篇、流転、若葉の夢、人情紙風船、結婚への道、曠原の魂、背広の王者、流転 炎の巻、ママの縁談、戦ひの曲、権三と助十、花ひらく、奴の小万、新選組、美しき鷹（新興）、盗人鷹、美しき鷹（日活）、美しき鷹（東宝）、禍福前篇、東海美女伝、雨の夜の抱擁、敵国降伏、進軍の歌、水戸黄門廻国記、時代の霧、旗本伝法、風の中の子供、限りなき前進、血祭三代目、江戸の荒鷲、番町皿屋敷、小町高、あだし幸福よ。</p>
映公 02-018	新聞切抜 1937年～1938年 映画批評 日本映画
解説	<p>背表紙に「日・批 2 12.11—13.6」の記載あり。対象年月は1937年11月～1938年6月、対象新聞は、中外商業新報、都新聞、報知新聞、東京朝日新聞、読売新聞、国民新聞、大阪毎日新聞、東京日日新聞、等。対象作品は、若い人、血路、たそがれの湖、鉄拳涙あり、呼子鳥、国定忠治、愛国六人娘、雷親爺、母の曲 前篇、娘よ何故さからふか、風の中の子供、浅草の灯、歌へ歓呼の春、鼻唄お嬢さん、人肌観音、血煙高田の馬場、まごゝろ万歳、自来也、無法者銀平、五人の斥候兵、囁みついた花嫁、静御前、女は嘆かず、君にささぐ花束、地熱、剣豪荒木又右衛門、風の女王、人斬り伊太郎、鴛鴦道中、露宮の歌、人は若者、阿部一族、姿なき侵入者、浮名ざんげ、青春オリンピック、母ぞよく知る、死の中隊、鞍馬天狗、東京要塞、春の逃げ水、泣蟲小僧、曙光（シーコワン）、愛国行進曲、怪談鴛鴦帖、ガラマサどん、忠臣蔵、東洋平和の道、維新の歌、出発、巨人伝、母の魂、螢の光、関の弥太ッペ、わが心の誓ひ、世紀の合唱、血染の手形、春雨郵便、応援歌、歌吉行燈、藤十郎の恋、永遠の感激、忠治子守唄、男の魂、紀国屋文左衛門、太陽の子、海の護り、或る女の道、青春角力日記、逢魔の辻、からゆき軍歌、愛より愛へ、田園交響楽、国民の誓、叫ぶ野武士。</p>
映公 02-019	新聞切抜 1939年 映画批評 日本映画
解説	<p>背表紙に「日批 (4)」の記載あり。対象年月は1939年2月～1939年8月、対象新聞は、東京朝日新聞、東京日日新聞、中外商業新報、国民新聞、都新聞、報知新聞、読売新聞、大阪朝日新聞、大阪毎日新聞、等。対象作品は、南風、爆音、女こそ家を守れ、美はしき出発、沼津兵学校、旗本と町奴、燦めく星座、結婚天気図、空襲、はたらく一家、袈裟と盛遠、権太と小判、忠孝小笠原狐、嵐に立つ女、雲雀、愛情部隊、白衣の兵隊、吉野勤王党、女の魂、頬白先生、月夜鴉、女の風俗第一話 お蝶さんの日記、王政復古、兄とその妹、春雷、土、忠臣蔵（東宝）、阿波狸合戦、両国梶之助、伏魔録、佐渡おけさ、江戸の悪太郎、出征譜、続愛染かつら、月形半平太、陽気な裏街 [陽気な裏町]、純情の眸、愛憎の書、お伊勢語り、尊王村塾、上海陸戦隊、樋口一葉、春秋一刀流、道化の町、新女性問答、女性開眼、山内一豊の妻、土を焼く街、紫式部、浪人街、花ある雑草、結婚問答、美しき首途、栄華絵巻、鞍馬天狗 江戸日記、胸に咲く花、初恋、金毘羅船、喧嘩島、素晴らしき哉彼女、男一匹、愛染格子、花園の天使、清水港、漢江、五人の兄妹、怪談狂恋女師匠、われらが教官 [われ等が教官]、光・われ等と共に、鞍馬天狗 復讐篇 [鞍馬天狗 恐怖篇]、冤魂復仇、エノケンの森の石松。</p>
映公 02-020	新聞切抜 1937年 映画批評 外国映画
解説	<p>背表紙に「外批 1 昭和十二年四月—十月 1937」の記載あり。対象年月は1937年4月～1937年10月、対象新聞は、東京朝日新聞、都新聞、名古屋新聞、大阪毎日新聞、報知新聞、中外商業新報、国民新聞、読売新聞、中央新聞、京都日出新聞、等。対象作品は、描かれた人生、天使の花園、沙漠の花園、ラモナ、セイルムの娘、結婚クーデター、我等の仲間、かりそめの幸福、失はれた地平線、緑の灯、彼女の男、十万弗玉手箱、楽聖ベートーベン、ロミオとジュリエット、麗人遁走曲、激怒、空襲ける恋、恋人の日記、海の巨人、港の掠奪者、無敵艦隊、暗黒街の弾痕、札つき女、四つのお恋愛、明朗色時代、踊るアメリカ艦隊、スウィング、大森林、吾が捧げし命、市街戦、お気に召すまま、はだしの少女、情熱への反抗、リビヤ自騎隊、熱風、男は神に非ず、ツンドラ、紐育の顔役、巨人ゴーレム、犯罪王、夜の鍵、不良青年、魂を失へる男、命を賭ける男、夕陽特急、ワイキキの結婚、真珠と未亡人、座り込み結婚、霧笛、シュバリエの流行児、南方飛行、大帝の秘密、沙漠の朝、倒れるま</p>

<p>で、椿姫、銀盤の女王、勝鬨、旅順港、たくまじき男、明日は来らず、歴史は夜つぐられる、血に笑ふ男、白鳥の舞、マドリッド最終列車、テンブルの上海脱出、ホノルル航空隊、踊らん哉、我は海の子、君若き頃、プラーグの大学生、スパイ戦線を衝く、海の魂。</p>
<p>映公 02-021 新聞切抜 1937年～1938年 映画批評 外国映画 解説 背表紙に「外批(2)昭和十二年十月—13五月」の記載あり。対象年月は1937年10月～1938年5月、対象新聞は、中外商業新報、東京朝日新聞、都新聞、大阪朝日新聞、読売新聞、東京日日新聞、報知新聞、大阪毎日新聞、等。対象作品は、第七天国、生けるバスカル、恋愛交差点、キング・ソロモン、大地、孔雀夫人、ブラウンの空中戦、新妻はタイピストから、間諜、どん底、空中劇場、報道戦、画家とモデル、山は笑ふ、サラトガ、悔悟、陽気な街、巴里の暗黒街、天国漫歩、再び戦場へ、オーケストラの少女、海のつばもの、軍使、闘ふ民族、宝の山、微笑む人生、赤ちゃん、踊る不夜城、恋のみちぐさ、鎧なき騎士、ひめごと、特種漁り、モダン・タイムス、膝にバンジョウ、新人豪華版、北京の嵐、或る映画監督の一生、夜は必ず来る、からくり花形、間諜最後の日、戦友、或る女、愛国の騎士、マルクス一番乗、奴隸船、ワルツの季節、木に攀る女、スタア誕生、レッド・ワゴン、暁の翼、十三日の金曜日、富豪一代、都会の雷鳴、新婚道中記、街は春風、ポピーの凱歌、結婚十字路、春に背くもの、誘拐者。</p>
<p>映公 02-022 新聞切抜 1939年 映画批評 外国映画 解説 背表紙に「外批(4)」の記載あり。対象年月は1939年4月～1939年12月、対象新聞は、中外商業新報、都新聞、読売新聞、東京朝日新聞、国民新聞、報知新聞、東京日日新聞、等。対象作品は、巴里の評判女、干潮、ノン・ストップ紐育、響け凱歌、青髭八人目の妻、アリババの都へ行く、黄金の夢、四人の姉妹、グレート・ワルツ、聖林ホテル、誰が犯人だ、忘れがたみ、思ひ出の曲、処女読本、暁に帰る、青春女学生日記、早春、ジョゼット、百万弗大放送、踊るホノルル、結婚スクラム、デッド・エンド、夜は巴里で、燦めく銀星、炎え上るバルカン、支配者、ボルカの歌姫、四人の復讐、踊れ芸人街、天晴れテムブル、生活の悦び、黄昏、テキサス人、暗黒王マルコ、赤ちゃん教育、美しき青春、猫橋、悪漢の町、群集は叫ぶ、世紀の楽団、サブマリン爆撃隊、年ごろ、気儘時代、ブルグ劇場、舞姫ざざ、ナポリのそよ風、少年の町、不思議なヴィクトル氏、真人間、黒蘭の女、人生の馬鹿、スエズ、汚れた顔の天使、乙女の曲、裏街六人組、南の誘惑、ターゼンの猛襲、庭の千草。</p>
<p>映公 02-023 新聞切抜 1936年～1939年 映画論説記事 解説 背表紙に「(1)」の記載あり。対象年月は1936年11月～1939年3月、対象新聞は、東京朝日新聞、読売新聞、東京日日新聞、報知新聞、国民新聞、中外商業新報、都新聞、大阪毎日新聞、京都日日新聞、等。執筆者は、岡本一平、小林秀雄、藤田嗣治、飯島正、窪川稲子、清水光、中野重治、春山行夫、寛清、岩崎昶、北川冬彦、原勝、新居格、内田岐三雄、湯浅克衛、清水幾太郎、水町青磁、中村武羅夫、宮城道雄、林謙 [木々高太郎]、大熊信行、岡本一郎、三村伸太郎、野上彌生子、長谷川伸、八住利雄、村上徳三郎、獅子文六、金須孝、岩佐東一郎、板垣直子、尾崎士郎、甘粕石介 [見田石介]、森若雄、中田晴康、小出英男、森山豊三郎、磯谷生、菅見恒夫、林房雄、榎崎勤、河上徹太郎、田村幸彦、岩田豊雄、今村太平、大江賢次、沢村貞子、長与善郎、上泉秀信、板垣鷹徳、萩原朔太郎、友田純一郎、小松芳喬。</p>
<p>映公 02-024 新聞切抜 1937年～1938年 映画論説記事 解説 背表紙に「(2) 12.4—12.12」の記載あり。対象年月は1937年3月～1938年8月、対象新聞は、報知新聞、東京日日新聞、都新聞、読売新聞、大阪毎日新聞、東京朝日新聞、等。執筆者は、大森義太郎、北川冬彦、滝沢英輔、中村甌右衛門、久松静児、岩崎昶、内田岐三雄、大谷竹次郎、飯田心美、北川冬彦、石原純、滋野辰彦、水久保澄子、原節子、永松定、谷川徹三、古田祐康、内田吐夢、真船豊、八木保太郎、岡田禎子、平林たい子、海野十三、Q [津村秀夫]、斎藤信雄、菅見恒夫、林謙 [木々高太郎]、柳沢健、寛清、杉本良吉、杉山平助、塩入龜輔、衣笠貞之助、飯島正、三好十郎、西本伊津三、平尾郁次、中村武羅夫、田島太郎、大橋武雄、ハヤブサ・ヒデト、滝沢修、川口三郎、岡譲二、丹羽文雄、友田純一郎、林房雄、早乙女武、立花高四郎、佐々木康、村山知義、島津保次郎、篠山克己、山本嘉次郎、水町青磁、松田解子、吉山旭光、佐々木能理男、権田保之助、高見順、菊池寛、榎崎勤、萩原朔太郎、高橋貫道、沢村勉、小林秀雄、新居格、水谷準、岡本かの子、窪川鶴次郎、辻二郎、吉屋信子、伊東恭雄、大熊信行、伊集院齊 [相良徳三]、植村泰二、正宗白鳥、河上徹太郎、赤神崇弘 [赤神良護]、新明正道、三木清、隈部一雄、マキノ正博、吉村操、金丸重嶺、園池公功。</p>
<p>映公 02-025 新聞切抜 1939年 映画論説記事 解説 対象年月は1939年3月～1939年8月、未添付のものは1939年12月頃まで、対象新聞は、中外商業新報、都新聞、東京日日新聞、東京朝日新聞、読売新聞、国民新聞、報知新聞、大阪毎日新聞、等。執筆者は、映画法検討座談会(館林三喜男、岩瀬亮、多田満長、三木武夫、田原春次、大蔵貢、池田義信、田村幸彦、林文三郎、井上麗吉)、赤松克磨、三島通陽、榎崎勤、新居格、長谷川如是閑、古谷綱武、岩崎昶、犬田卯、正宗白鳥、杉山平一、中野重治、相良徳三、長田恒雄、浜村米蔵、園池公功、権田保之助、大坪保雄、河上徹太郎、大谷博、前田偉男、渡辺捨雄、小津安二郎、岡譲二、関野嘉雄、徳永直、寺尾幸夫、渡辺俊平、南部三郎、山本杉、波多野完治、田坂具隆、林彌之吉、北川冬彦、染谷格、菅見恒夫、古川晴男、[以</p>

<p>下未添付] 水町青磁、北村喜八、三島章道 [三島通陽]、今村太平、小幡重一、村山知義、片野曉詩、大森義太郎、岡本功司、伊丹万作、窪川稲子、三橋達吉、山本嘉一、宮沢俊義、六車修、城戸四郎、西村晋一、大井広介、式場隆三郎、他。</p>
<p>映公 02-026 新聞切抜 1934年～1948年 映画批評 日本映画・外国映画</p> <p>解説 対象年月は1934年4月～1948年12月、対象新聞の記載なし（東京朝日新聞か）。戦前の記事はQ [津村秀夫] の映画評が中心で、他に中代生、飯島正、中野好夫、内田岐三雄、檜崎勤、岩崎昶、以下戦後=井沢淳、敏 [早田秀敏]、宮本三郎、大佛次郎、林芙美子、飯島正、河原崎長十郎、福原麟太郎、塚田正夫。対象作品は、にんじん、ドン・キホーテ、商船テナンチイ、外人部隊、未完成交響楽、ロスチャイルド、別れの曲、春のバラード、情熱なき犯罪、麦秋、風の中の子供、限りなき前進、若い人、舞踏会の手帖、綴方教室、わが家の楽園、路傍の石、デッド・エンド、ブルグ劇場、土と兵隊、残菊物語、その前夜、囂眼鏡、土、歴史、最後の兵まで、小鳥の春、グレート・ワルツ、幻の馬車、民族の祭典、世紀の凱旋、転落の詩集、燃ゆる大空、鉄の愛情、浪花女、太陽の子、風の又三郎、ムッソリニア、偉人エーリッヒ、スミス都へ行く、土に生きる、八十八年目の太陽、わが愛の記、元禄忠臣蔵、川中島合戦、次郎物語、大村益次郎、或る保姆の記録、意志の勝利、若い先生、海鷲、将軍と参謀と兵、東郷元帥と日本海軍、父ありき、南海の花束、母子草、山参道、小林一茶、娘々廟会、西住戦車長伝、独眼龍正宗、マレー戦記、昭南島誕生、空の神兵、西遊記、新雪、希望音楽会、南の風、続南の風、鳥居強右衛門、慈悲心鳥、帝国海軍勝利の記録、英国崩るゝ日、東洋の凱歌、ハワイ・旅行記、手をつなぐ子等、面影、ミネソタの娘、酔いどれ天使、カルメン、わが愛は山の彼方に、ゾラの生涯、我等の生涯の最良の年、逢びき、聖メリイの鐘、蜂の巣の子供たち、ステート・フェア、ヘンリー五世、王将、海の牙、裸の町、シベリヤ物語、遙かなる我が子、オヴァランダース、三十四丁目の奇蹟、暗い鏡、パーキントン夫人。チラシ「文部省に於ける映画選奨趣旨普及映写会 昭和十六年度文部大臣特賞映画『元禄忠臣蔵』の鑑賞について」（津村秀夫、1937年5月21日、神田一ツ橋共立講堂）。</p>
<p>映公 02-027 新聞切抜 1941年 映画批評 日本映画</p> <p>解説 表紙に「邦5」の記載あり。対象年月は1941年3月～9月、対象新聞は、都新聞、東京日日新聞、中外商業新報、読売新聞、国民新聞、報知新聞、毎夕新聞、やまと新聞、等。対象作品は、幸福の鏡、十一人の顔、家光と彦左、剣光桜吹雪、猛獣使ひの姉妹、鉄の花嫁、母の姿、十日間の人生、逢初峠、夫婦太鼓、明暗二街道、見世物船、花は偽らず、振袖御殿、曉雲武蔵ヶ原、女性新装、風雲、白鷺、雲雀は空に、元気で行かうよ、大都会、海を渡る祭礼、海の見える家、鞍馬天狗 雨中の騎士、脂粉追放、天兵童子 第一話 幼き英雄、愛の砲術、阿波の踊子、国技大相撲 前半戦、団栗と椎の実、鞍馬天狗 銀河の美女、行き合ふ人達、潜水艦1号、娘旅芸人、歌へば天国、解決、柳生月影抄、母の灯、天下の杀平、英雄峠、暁の合戦、虞美人草、愛の一家、愛憎乱麻、旋風街、上海の月、姿なき復讐、花、鞍馬天狗 薩摩の密使、阿修羅姫、関魚、泰国の全貌、起ち上がる泰、碑、結婚の生態、維新前夜、雪子と夏代、世紀は笑ふ、電撃二重奏、花丸小鳥丸、北極光、新門辰五郎、簀、春星夫人。</p>
<p>映公 02-028 新聞切抜 1942年 映画批評 日本映画</p> <p>解説 背表紙に「映評」の記載あり。対象年月は1942年5月～11月、対象新聞は、都新聞、報知新聞、国民新聞、東京朝日新聞、中外商業新報、名古屋新聞、読売新聞、東京日日新聞、満洲日日新聞、等。対象作品は、高原の月、虹の道、南海の花束、山参道、母子草、大阪町人、婦系図、日本の母、独眼龍政宗、水滸伝、思出の記、龍神剣、マレー戦記、木蘭従軍、続婦系図、通信挺身隊、今日の戦ひ、海猫の港、兄妹会議、海の民、久遠の笑顔、誓ひの港、伊賀の水月、航空基地、小春狂言、空の神兵、八処女の歌、母の地図、すみだ川、南の風、ビルマ戦記、お市の方、西遊記、江戸の朝露、北の護り、母は死なず、新雪、鳥居強右衛門、南方発達史 海の豪族、南への基地、希望音楽会（ドイツ映画）、美しい横顔、帝国海軍勝利の記録、翼の凱歌、鞍馬天狗（伊藤大輔）、或る女、慈悲心鳥、養魚田、東郷元帥と日本海軍、君は操縦者になれるか、国技大相撲。プレスシート「白鳥の死」（フランス映画、監督ジャン・ブノワ＝レヴィ、1937年、日本公開1941年、三映社提供）。</p>
<p>映公 02-029 新聞切抜 1942年 映画記事</p> <p>解説 表紙及び背表紙に「新聞切抜」「映畫（1）一七・五一一七・八」の記載あり。対象年月は1942年5月～8月、対象新聞は、国民新聞、同盟通信、中外商業新報、都新聞、報知新聞、東京日日新聞、東京朝日新聞、大阪朝日新聞、等。対象事項及び映画作品・執筆者は、中華映画、南洋映画協会、南方工作、サヨンの鐘、維新の曲、支那の夜、満洲映画協会、むすめ七人、南から帰った人、安南芝居探訪、本間金資、小出英男、映画配給社、島津保次郎、市川彰、岡譲二、英国崩るる日 [英国崩るゝ日]、六車修、ボルネオの映画館、仏印映画事情、城戸四郎、大庭秀雄、久遠への笑顔、朝鮮映画、中田晴康、稲垣浩、北極光、文化映画統合、今村太平、島耕二、吉村公三郎、丸山定夫、近藤伊与吉、遠藤慎吾、上野一郎、等。</p>

映公 02-030
新聞切抜 1941年～1942年 映画批評 日活系
解説 背表紙に「映画批評(日活系)其の二」の記載あり。対象年月は1941年12月～1942年4月、対象新聞は、やまと新聞、都新聞、報知新聞、中外商業新報、読売新聞、東京朝日新聞、国民新聞、満洲日報、等。対象作品は、決戦奇兵隊、微笑の国、柳生大乗剣、海の母、江戸の龍虎、将軍と参謀と兵、宮本武蔵一乗寺決闘、第五列の恐怖。
映公 02-031
新聞切抜 1942年～1943年 映画批評 新興・大映系
解説 背表紙に「映画批評(新興系)其の四」の記載あり。対象年月は1942年1月～1943年11月、対象新聞は、東京日日新聞、東京朝日新聞、都新聞、やまと新聞、報知新聞、京都日日新聞、華北新報、国民新聞、大阪朝日新聞、満洲日報、中外商業新報、産業経済新聞、東京新聞、等。対象作品は、大村益次郎、不知火乙女、母よ嘆く勿れ、維新の曲、虹の道、山参道、大阪町人、独眼龍政宗、海猫の港、思出の記、伊賀の水月、八処女の歌、お市の方、江戸の朝露、南方発展史 海の豪族、新雪、鞍馬天狗、英国崩るゝの日、あなたは狙はれてゐる、歌ふ狸御殿、三代の盃、富士に立つ影、成吉思汗、青空交響楽、虚無僧系図、女のたたかひ、華かなる幻想、護る影、風雪の春、シンガポール総攻撃、二刀流開眼、戦場に咲く、マライの虎、我が家の風、決闘般若坂、結婚命令、奴隷船、無法松の一生、重慶から来た男、出征前十二時間。
映公 02-032
新聞切抜 1943年～1944年 映画批評 日本映画
解説 対象年月は1943年11月～1944年1月、対象新聞は、やまと新聞、東京新聞、東京朝日新聞、日本産業新聞、読売新聞、等。対象作品は、加藤半戦開隊、北の兵隊、若き姿、出征前十二時間、海軍、あの旗を撃て、土俵祭、浪曲忠臣蔵、海峡の風雲児、海賊旗吹ッ飛ぶ、坊ちゃん土俵入、剣風練兵館、海軍 決定版、三人のマリア、おばあさん、モンベさん、勝鬨音頭、菊池千本槍、決戦、君こそ次の荒鷲だ。
映公 02-033
新聞切抜 1941年～1942年 映画批評 ニュース映画・文化映画
解説 目次に1941年9月～1942年7月までの「日本ニュース」「ホームグラフ」等のニュース映画や「新しき翼」等の文化映画、「望郷」等の外国映画の題名等が記載されているだけで、切抜自体は欠落している。
映公 02-034
新聞切抜 1942年～1943年 映画批評 文化映画
解説 背表紙に「文化映画批評(二)」の記載あり。対象年月は1942年5月～1943年12月、対象新聞は、東京朝日新聞、国民新聞、東京日日新聞、都新聞、東京新聞、産業経済新聞、やまと新聞、信濃毎日新聞、読売報知、等。対象作品は、東郷元帥と日本海軍、国技大相撲、砲弾、大アマゾン、大東亜建設の序曲、北洋日記、燈台物語、あざらしの国、こゝでも戦つてゐる、壊滅する重慶陣営、今日の戦ひ、通信挺身隊、海の民、マレー戦記 昭南島誕生、空の神兵、ビルマ戦記、南への基地、帝国海軍勝利の記録、慈悲心鳥、東洋の凱歌、水中測の兵、焼夷弾、潤滑油、棉花、陸軍航空戦記、基地の建設、鴨緑江ダム、闊ふ護送船団、桃太郎の海鷲、驪北の仔、明るい村、高原の村、山西の土地と民、海軍戦記、ニッポンバンザイ、大陸新戦場、上海海軍特別陸戦隊、法隆寺、わが本土を狙ふもの、女子青年隊の報告、常に戦場に在り 山本元帥の一生、税と生活、音は生きてゐる、北の健兵、山に戦ふ、富士に誓ふ、石油のボルネオ、空往く少年通信兵、生駒山滑空場、田植競争、水防、私たちの戦ひ、武蔵野に鍛ふ、防空読本、勝つために、勝利の日まで、今ぞ一億戦闘配置へ。
映公 02-035
新聞切抜 1941年～1943年 映画記事
解説 背表紙に「映画関係新聞切抜」の記載あり。対象年月は1941年5月～1943年1月、対象新聞は、都新聞、中外商業新報、東京日日新聞、読売新聞、東京朝日新聞、読売報知、等。対象事項及び執筆者は、文化映画統制、外国映画統制、映画臨戦体制、中華映画、米国映画、満洲映画、抗日映画、仏印だより、南洋映画協会、山根正吉、ドイツ映画、大陸映画、熱砂の誓 華語版、重慶映画界、市川彩、映画宣伝謀略戦、板垣鷹徳、聯合製片公司、朝海浩一郎、共栄園の映画、比島映画、田村幸彦、衣笠貞之助、昭南島の映画界、上野一郎、熊谷久虎、今日出海、移動映写、馬來で観た映画(本城久雄)、中島宝三、今村太平、等。
映公 02-036
スクラップブック 東京中央劇場週報
解説 背表紙に「(松竹系) 東京中央劇場」の記載あり。「東京中央劇場週報」第4号～第24号(第6号、第18号、第21号欠) =計18点、1941年6月～12月。東京中央劇場は築地の東京劇場の5階にあった松竹直営館。
映公 02-037
スクラップブック 帝都座週報
解説 「帝都座週報」第546号～第587号(第547号、第549号～第551号、第563号、第564号、第582号、第583号、第586号欠) =計33点、1942年4月～1943年1月。帝都座は新宿三丁目にあった日活直営館。

映公 02-038	新聞切抜 1939年～1940年 映画批評 日本映画
解説	背表紙に「日・批(5)」の記載あり。対象年月は1939年8月～1940年2月、対象新聞は、国民新聞、中外商業新報、報知新聞、東京日日新聞、都新聞、帝都日々新聞、東京朝日新聞、等。対象作品は、暴れ出した孫悟空[暴れだした孫悟空]、牢獄の花嫁、街と黒潮、越後獅子祭、婦人従軍歌、新月隅田川、あきれた百万円、まごころ、地平線、姫君大納言、愛情一筋道、波濤、深川風流唄、桑の実は紅い、新しき家族、女の教室、のんき横町、姉の秘密、私の太陽、うぐいす侍、母、鬼あざみ、狸御殿、その前夜、土と兵隊、花嫁競争、残菊物語、長脇差団十郎、東京の女性、街の花売娘、若い仲間、リボンを結ぶ夫人、愛染かつら 完結篇、第二の出発、吉良の仁吉、三味線武士、空の彼方へ、海援隊、暖流、白蘭の歌、空想部落、娘義太夫、妻と戦争、鴛鴦歌合戦、初笑ひ国定忠治、ロッパの新婚旅行、御存知東男、若妻の夢、女百万石、街の唱歌隊、鴈鳴浪人 完結篇、天狗廻状 魔刃の巻、花園の結婚、近藤勇、愛染椿、闇太郎懺悔、雲月の九段の母、愛人の誓ひ、弥次喜多 名君初上り、大地に咲く、新女性聯盟、光と影、黒潮に咲く花。
映公 02-039	スクラップブック 日本劇場ニュース
解説	背表紙に「紅一」「日本劇場」の記載あり。「日本劇場ニュース」第231号～第336号(第277号、第288号、第296号、第328号欠)=計102点(但し号数の順番に乱れがあるため欠号号数は不正確)、1941年1月～1943年1月。日本劇場は丸の内にあった東宝直営館。1942年4月以降は、映画配給社の紅系封切館となった。
映公 02-040	スクラップブック 紅一
解説	背表紙に「紅一」の記載あり。目次欄に1頁から10頁までの記載があるが、台紙に添付されていたと思われる映画館プログラムは剥がされている。目次記載の映画作品名は、『美しき犠牲』(1941年)、『風薫る庭』(1942年)等なので、松竹系の劇場プログラムか。
映公 02-041	スクラップブック 日比谷映画劇場ニュース
解説	背表紙に「白一」の記載あり。「日比谷映画劇場ニュース」第344号～第447号(第407号、第412号、第443号～第445号欠)=計99点、1940年12月～1943年1月。日比谷映画劇場は丸の内にあった東宝直営館。1942年4月以降は、映画配給社の白系封切館となった。
映公 02-042	スクラップブック 国際劇場週報
解説	背表紙に「白一」の記載あり。「国際劇場週報」第82号～第146号(第94号、第109号、第112号、第113号、第141号欠、特輯号2点、号数だぶり1点)=計63点、1941年9月～1943年1月。国際劇場は浅草の松竹直営館。1942年4月以降は、映画配給社の白系封切館となった。
映公 02-043	スクラップブック 映画館プログラム
解説	目次欄に1頁の記載があるのみで、台紙に添付されていたと思われる映画館プログラムは剥がされている。目次記載の映画作品名は、『世紀の笑ひ』[世紀は笑ふ](1941年)。
映公 02-044	スクラップブック 映画館プログラム
解説	目次欄も切り取られ、台紙に添付されていたと思われる映画館プログラムも剥がされている。
映公 02-045	新聞切抜 敵アメリカの映画戦略(東京新聞連載)
解説	東京新聞連載の「敵アメリカの映画戦略」1～10、5月23日～6月4日、掲載年は1944年頃。内容は日本映画社海外局が入手した資料によりアメリカの反日、対日映画を紹介。付属資料:「東映週報 NO186」(新宿東宝映画劇場発行、1942.04.30～05.06、上映作品『爆弾』(文化映画)、『日本ニュース NO99』、『兄とその妹』(島津保次郎)、記事「情報局の国民映画受賞作品決定発表」[生硬すぎた国民映画](不破[祐俊]第五部第二課長批評談)、表紙『維新の曲』)。
映公 02-046	新聞切抜 1949年 映画批評
解説	対象年月は1949年1月～8月、対象新聞は、朝日新聞、読売新聞[推定]、等。対象作品は、霜の花、女の一生、愛の調べ、大いなる遺産、卵と私、風の子、二重生活、哀愁、鶴と子供たち、大いなる幻影、果てなき船路、ママの思い出、黄金、森

<p>の石松、犯罪河岸、聖パンサン、子鹿物語、ジャコ万と鉄、楽聖ショパン、青い山脈、勸進帳、恐るべき親たち、北ホテル、ジョニー・ベリング、真珠。</p>
<p>映公 02-047 新聞切抜 1933年～1934年 映画記事 解説 表紙に「NEWS FUN From MARCH 1933 1934 NO.THREE」の記載あり。対象年月は1933年3月～1934年10月、対象新聞は、東京日日新聞、東京朝日新聞、万朝報、証券週報、時事新報、キネマ旬報、中外商業新報、等。対象事項及び執筆者は、小型映画、橋定友、トーキー、河向ふの青春、長谷川如是閑、板垣鷹徳、ほしの・たつを〔保篠龍緒〕、映画国策、衣笠貞之助、大東京、山田耕作、下位春吉、映画館争議、四十二番街、Q〔津村秀夫〕、支那の映画界（米田祐太郎）、河竹繁敏、吉田哲夫、立花高四郎、護れ大空、中島信、備忘録記鈔（佐藤春夫）、朝日賞、街の灯、吉村冬彦、俳諧映画（松根東洋城）、袋一平、映画揺籃時代の思ひ出（横田永之助）、岡田嘉子、飯島正、武田麟太郎、神々の御座（藤木九三）、岩崎昶、映画検閲、小出正吾、教化映画、マーヴィン・ルロイ来日、水田文雄、ルネ・クレール、松尾邦之助、岡田三郎、堀内敬三、チラシ「基督教小型映画出張映写奉仕」、鏡獅子、尾上菊五郎、五所平之助氏と一問一答、山内光、原田俊之助、宮下孝雄、チラシ「トーキーによる広告映画の夕」（広告研究団体二火会主催、1934.11.13、報知講堂）、坊ちゃん、トップ・ハット、多胡隆、三木春雄。</p>
<p>映公 02-048 新聞切抜 1944年 映画批評及び記事 解説 対象年月は1944年1月～2月、対象新聞は、東京新聞、読売新聞、やまと新聞、日本産業新聞、東京朝日新聞、毎日新聞、等。対象作品及び事項、執筆者は、勝岡音頭、大東亜映画人大会、武藤富男、菊池千本槍、おぼあさん、モンベさん、浪曲志臣蔵、紅線伝（華北電影）、草駄天街道、杉浦幸雄、母の瞳（ドイツ映画）、雛鷺の母、あの旗を撃て、轟沈、愉しき哉人生、爆風と弾片、俳優座旗挙げ、一番美しく、東宝女子挺身隊の手記（羽島敏子、相川路子）、父子桜、国技大相撲、佐分利信、庄田満洲五郎、「あの旗を撃て」を見る（奈良良、伊奈信男、尾崎士郎、猪熊弦一郎）。</p>
<p>映公 02-049 新聞切抜 1943年7月～10月 映画批評及び記事 解説 背表紙に「II」の貼紙の断片あり。対象年月は1943年7月～10月、対象新聞は、やまと新聞、東京朝日新聞、大阪毎日新聞、東京新聞、日本産業経済、茨城新聞、神奈川新聞、毎日新聞、京都日日新聞、読売報知、上毛新聞、等。対象作品及び事項、執筆者は、花咲く港、大山定一、女子青年隊の報告、急降下爆撃隊、北方に鐘が鳴る、暖き風、我が家の風、津村秀夫、をぢさん、決戦の大空へ、今日出海、批評に就て（黒澤明）、血闘般若坂、飯田心美、科学映画、サヨンの鐘、歌ふ狸御殿、大陸新戦場、名人長次郎、愛国の花、愛機南へ飛ぶ、比島派遣軍報道部・中島宝三、北の健兵、山に戦ふ、管見恒夫、渡辺邦男、石油のボルネオ、海軍病院船、富士に誓ふ、今村太平、空往く少年通信兵、生駒山滑空場、世界に告ぐ、戦ふ少国民、供米記、愛馬譜、菊水とはに、中田弘二、映画雑誌統合、虎彦龍彦、女性映写技士、熱風、田中絹代、少年漂流記、等。</p>
<p>映公 02-050 新聞切抜 1943年10月～11月 映画批評及び記事 解説 対象年月は1943年10月～11月、対象新聞は、読売報知、毎日新聞、東京新聞、神戸新聞、大阪毎日新聞、やまと新聞、中部日本新聞、東京朝日新聞、等。対象作品及び事項、執筆者は、富士に誓ふ、大塚恭一、君こそ次の荒鷲だ、熱風、松竹大船芸能奉公隊、東宝撮影所女優鼓笛隊、あの旗を撃て、水町青磁、海軍、上野一郎、日本映画の南方進出 比島現地座談会（滝村和男、阿部豊、大河内伝次郎、滝井孝二、中島宝三）、進め独立旗、国声劇旗挙げの片岡千恵蔵、熊谷久虎、無法松の一生、白皮線、愛馬譜、決戦、ジャワの映画界、中華映画界、依田義賢、伊奈信男、飯島正、重慶から来た男、高峰三枝子、社団法人大日本映画協会新発足、日本映画出版株式会社、ソ連の映画界、南部圭之助、私たちの戦、北の兵隊、長谷川如是閑、藤本真澄、武田秀郎、愉しき哉人生、母の記念日、大宅壮一、秘めたる覚悟、猪俣勝人、菊池寛、マレー沖海戦、生きてある孫六、森田信義、伊藤道郎、大黒東洋社、中村武羅夫、内田岐三雄、防空読本 救護篇、勝つために、海賊旗吹っ飛ばす、出征前十二時間、等。</p>
<p>映公 02-051 新聞切抜 1943年9月～12月 映画批評及び記事 解説 対象年月は1943年9月～12月、対象新聞は、東京新聞、読売報知、東京日日新聞、日本産業経済、東京朝日新聞、等。対象作品及び事項、執筆者は、世界に告ぐ、奴隷船、決戦の大空へ、愛機南へ飛ぶ、今村太平、南部圭之助、今井達夫、管見恒夫、海軍病院船、石油のボルネオ、富士に誓ふ、空往く少年通信兵、生駒山滑空場、菊水とはに、映画雑誌統合、尾沢良三、熱風、大塚恭一、岸松雄、金子洋文、中田弘二、田中絹代、少年漂流記、社団法人大日本映画協会新発足、日本映画出版株式会社、愉しき哉人生、大日本芸能会、海軍 決定版、三人のマリア（フィリピン映画）、東宝株式会社発足、等。</p>
<p>映公 02-052 新聞切抜 1943年10月～12月 映画記事 解説 背表紙には「文化（芸能）第一号」の記載あり。対象年月は1943年10月～12月、対象新聞は、東京新聞、東京日日新聞、読売報知、等。対象事項及び執筆者は、櫛崎勤、水町青磁、上野一郎、熊谷久虎、蜂野豊夫、栗原茂一郎、日本映画の南方</p>

<p>進出 比島現地座談会 (滝村和男、阿部豊、大河内伝次郎、滝井孝二、中島宝三)、ジャワの映画界、無法松の一生、最近の中華映画界、依田義賢、秦豊吉、古谷綱武、南部圭之助、藤本真澄、ソ連の映画界、大塚恭一、武田秀郎、社団法人大日本映画協会新発足、森田信義、伊藤道郎、猪俣勝人、菊池寛、稲垣浩、内田岐三雄、中村武羅夫、大黒東洋士、マレー沖海戦、杉山平一、加藤隼戦闘隊、連載「蹴起せよ映画界」、連載「特輯 "海軍" 研究」(飯田心美、島津保次郎、水町青磁、五所平之助、円谷英二、清閑寺健)、あの旗を撃て、土俵祭、小沢栄太郎、アメリカ映画の謀略、等。</p>
<p>映公 02-053 新聞切抜 1943年10月～12月 映画批評</p> <p>解説 背表紙には「文化(映評)第一号」の記載あり。対象年月は1943年10月～12月、対象新聞は、東京新聞、読売報知、東京日日新聞、日本産業経済、等。対象作品は、富士に誓ふ、進め独立旗、無法松の一生、火砲の響、仮面の舞踏、田植競争、水防、重慶から来た男、私たちの戦ひ、武蔵野に鍛ふ、母の記念日、秘めたる覚悟、生きてゐる孫六、防空読本 救護篇、勝つために、若き姿、出征前十二時間、坊ちゃん土俵入、海軍、浪曲忠臣蔵、北の兵隊、海峡の風雲児、剣風練兵館、等。</p>
<p>映公 02-054 新聞切抜 1943年10月～12月 情報局・大東亜映画人大会</p> <p>解説 対象年月は1943年10月～12月、対象新聞は、同盟通信、やまと新聞、東京新聞、東京朝日新聞、合同通信、満洲新聞、等。対象事項は、情報局各課分掌事項、大東亜共同宣言、大東亜映画人大会の提唱、大東亜文化の基礎(長谷川如是閑)、轟沈、等。</p>
<p>映公 02-055 新聞切抜 1943年7月～12月 満洲・華北</p> <p>解説 対象年月は1943年7月～12月、対象新聞は、満洲新聞、通信合同、同盟通信、東亜日報、大陸新報、東京新聞、等。対象作品及び事項、執筆者は、華北電影、満映啓発映画、狼火は上海に揚る、中華電影、問題作「博愛」(奥田久司)、邦字新聞の映画広告、重慶から来た男、誓ひの合唱、満映の啓民映画「野菜の貯蔵」、最近の中華映画界、林広吉、河上徹太郎、麻生豊、奴隷船、甘粕正彦、火砲の響、熱風、満映作品「煖房焚き方」「開拓地の子供」「勝利の響」「俘虜」、海軍、文化決戦における映画、等。</p>
<p>映公 02-056 新聞切抜 1943年11月～1944年5月 満洲・華北</p> <p>解説 対象年月は1943年11月～1944年5月、対象新聞は、大陸新報、東亜日報、通信合同、同盟通信、東京新聞、やまと新聞、満洲新聞、等。対象作品及び事項、執筆者は、辻久一、満洲映画協会、華北電影、狼火は上海に揚る、満映科学映画研究所長・木村莊十二、中国の京劇を語る(辻久一)、あの旗を撃て、遅しき仲間、今軀誠二、等。</p>
<p>映公 02-057 新聞切抜 1943年 南方新聞 劇場情報</p> <p>解説 表紙に「昭和拾八年六月起 南方局計畫部」、背表紙に「南方各新聞」の記載あり(また背表紙に添付してあったと思われる紙片に「南方一藝能文化 1」の記載あり)。対象年月は1943年5月～6月、対象新聞は、昭南日報、AZAD HIND(インドネシア新聞)、Berita Malai (MALAI SINBUN)、The Syonan Sinbun、MALAI SINBUN(マレー語)、等で、劇場情報が記載されている。また南方局とは映画配給社南方局のこと。</p>
<p>映公 02-058 新聞切抜 1943年 仏印新聞 映画批評</p> <p>解説 表紙に「昭和十八年六月 南方局ケイカク部」、背表紙に「佛印新聞(映画)」の記載あり。対象年月は1943年5月～6月、対象新聞は、Impartial、Soir d'Asie、L'Opinion、Nouvelles、等のフランス語新聞(手書きの日本語訳あり)。対象作品はサイゴンのエデン劇場で公開された、女の教室、ハワイ・マレー沖海戦、萬世流芳、新雪。</p>
<p>映公 02-059 新聞切抜 1946年～1947年 一般記事</p> <p>解説 表紙に「一般」の記載あり。対象年月は1946年1月～1947年3月、対象新聞は、日本産業経済、毎日新聞、朝日新聞、読売新聞、等。対象事項は、映画記事ではなく、東京復興計画案、金融緊急措置令、ローマ字の綴り方、物価統制令、常用漢字、等。</p>
<p>映公 02-060 新聞切抜 1946年～1947年 映画記事</p> <p>解説 表紙に「時事」の記載あり。対象年月は1946年1月～1947年3月、対象新聞は、日本産業経済、東京新聞、読売新聞、朝日新聞、毎日新聞、等。対象事項及び執筆者は、入場税撤廃、歌舞伎の公演中止、あなたの議会、GHQ映画検閲、新しい歴史映画(岩崎昶)、アーニーバイル劇場改称、禁止映画引渡命令、ヨシワラ、大映社名変更、安部文相日本ニュースに抗議、川喜多長政帰京談、小津安二郎帰還報告、岡譲二台湾から帰還、映画界の戦犯追放、日映南方局長星野辰男帰京談、渋谷美帰京談、内田吐夢八路军で映画製作、島津[保次郎]賞の制定、銀幕スト(東宝、松竹、日映等)、伊丹万作法要、邦楽座がピカデリー劇場と改称、東宝スト分裂、新東宝誕生、岩佐氏寿、飯島正、ジャン・テデスコ、野口口光、城戸四郎が東京裁判で満洲問題につき反証、映画界自体の自由性(水町青磁)、等。</p>

映公 02-061	新聞切抜 1946年～1947年 映画記事 / 戦時中の文化映画広告
解説	<p>表紙に「時事」、背表紙に「文化映画及ビ時事映画広告」の記載あり。対象年月は1946年1月～1947年3月、対象新聞は、日本産業経済、毎日新聞、東京新聞、読売新聞、朝日新聞、等。対象作品は、喜劇は終わりぬ、檜舞台、明治の兄弟、朝いつ追はれつ、歌の花籠、瓢箪から出た駒、新しい歴史映画(岩崎昶)、煉瓦女工、陽気な女、キュリー夫人、大曾根家の道、ヨシワラ、春の序曲、女生徒と教師、映画戦犯を繞って(八木保太郎)、エイブ・リンカン、迷へる天使、ルパン登場、私たちの青春、或る夜の接吻、松竹朗らか週間、桃色の旅行靴、ブロードウェイ、淑女と拳骨、俺もお前も、天使、最後の抱擁、或る夜の殿様、幽霊紐帯を歩く、アリゾナ、鸚鵡は何を覗いたか、接吻映画紙上討論会、映画作家の陥穽(若佐氏寿)、映画と原作者(尾崎士郎)、伊丹万作逝く(飯田心美)、映画に「美しさ」を(双葉十三郎) / 松竹=人生画帖、街の野獣、金ちゃんのマラソン選手、のんきな父さん、わが恋せし乙女、歌麿をめぐる五人の女、許された一夜、満月城の歌合戦、最後の鉄腕、仮面の街、地獄の顔、象を喰った連中、結婚 / 東宝=君かと思ひて、僕のお父さん、命ある限り、霧の夜ばなし、滝の白糸、東宝ショウボート、響入り豪華船、縁は異なもの、忍術千一夜、東宝千一夜、さくら音頭 今日踊って、四つの恋の物語、わが青春に悔なし / 大映=お夏清十郎、お嬢様お手を [お嬢さんお手を]、国定忠治、おかげで兄弟、修道院の花嫁、狸になった和尚さん、槍おどり五十三次、二死満塁、恋三味線、踊子物語、盗まれかけた音楽祭 [盗まれかけた音楽会]、海の狼、七つの顔、花嫁の正体、婦人警察官、今宵妻となりぬ、闇を走る馬者 / 外国映画=カサブランカ、肉体と幻想、運命の饗宴、旋風大尉、生きている死骸、感激の町、我が道を往く、疑惑の影、スポーツ・パレード、スポイラース、緑のそよ風、うたかたの恋、南部の人、わが心の歌、愛のアルバム、小麦は緑、極楽闘牛士、征服、断崖、夜霧の港、凸凹お化け騒動、アメリカ交響楽、クリスマスの休暇、永遠の処女 / ニュース映画・短篇映画=ニュース映画月報、日本の悲劇、等。なお左開きには1944年1月から7月までの文化映画の新聞広告を添付。対象作品は、国技大相撲、見えざる戦力、土に戦ふ、新しき郷土、飛行機を造れ、轟沈、セレベス、最初の一分間。</p>
映公 02-062	新聞切抜 1943年 戦況
解説	<p>表紙に「戦況」、背表紙に「戦況・第一号」の記載あり。対象年月は1943年7月、対象新聞は、日本産業経済、東京日日新聞、読売報知、朝日新聞。対象事項は、ニュージョージア島の戦い。</p>
映公 02-063	新聞切抜 1943年 南方映画工作
解説	<p>対象年月は1943年7月～12月、対象新聞は、同盟通信、東京新聞、やまと新聞、合同通信(通信合同)、毎日新聞、読売報知、等。対象事項は、藤山一郎の南方報告、「愛の世界」批評、映配スマトラ支社開設、バリ島の日本映画熱、日映クチン支局開設、比島から(中島宝三)、ビルマの放送(松内則三)、共栄圏の文化宣伝(春山行夫)、ジャカルタ移動映写、ジャワ映画界近況、三橋哲生、あの旗を撃て、荒井良平、日本映画の南方進出 比島現地座談会(中島宝三、滝井孝二、滝村和男、阿部豊、大河内伝次郎)、日本映画の反響 大華大戲院から(千葉俊一)、ジャワの映画界、大東亜ニュース、南の願望(インドネシア映画、倉田文人監修)、安南民族と日本映画、等。</p>
映公 02-064	新聞切抜 1943年～1944年 ヨーロッパ・アメリカ・ソ連映画関係
解説	<p>背表紙に「欧・米・ソ聯—芸能関係」の記載あり。対象年月は1943年6月～1944年2月、対象新聞は、やまと新聞、朝日新聞、東京新聞、神奈川新聞、等。対象事項は、ドイツ映画界、世界に告ぐ、ソ連の映画界、辻二郎、喘ぐ米芸能界(伊藤道郎)、アメリカ映画の謀略、母の瞳、独逸の前線劇場、等。</p> <p>付属資料「同盟通信 映画・芸能版」1944年1月6日 第2927号 発行所:同盟通信社 編輯発行人:杉田才一 7p 内容細目:年頭に際し映画界に直言す(金井元彦)、昨年度から持ち越しの映画界各社の懸案、松竹、東宝、大映三社の上半期製作陣、映画俳優は中年組か? 独占 歌舞伎の人気役者は高齢組、松竹の新人新 新春より発足、芸能界の決戦体制成る 興行取締の一元化と芸者整備、優秀音楽家推薦と表彰 日本音文協の新計画、人物月旦 芸能第一線(一) 大日本映画協会事務局次長 城戸四郎(茂木久平)、昭和十九年を迎へて_ 観客の頭を切替へよ(菊池寛) / 職域奉公の誠をつくす(白井信太郎) / 一切を挙げて戦力増強へ(大沢善夫)、敵前映画製作への進発(井上清一)。</p>
映公 02-065	〈日本映画雑誌協会資料〉 雑誌切抜 1941年 一般雑誌映画関係記事
解説	<p>背表紙に「一般雑誌映画関係記事 昭和十六年度」の記載あり。対象年月は1941年2月～12月、対象雑誌は、新潮、文芸春秋、科学ペン、改造、日本評論、三田文学、週刊朝日、中央公論、文芸、新文化、サンデー毎日、週報、日の出、ダイヤモンド、週刊朝日、婦人朝日、新文化、新女苑、婦人公論、エコノミスト、東洋経済新報、ダイヤモンド、知性、文学界。対象記事は、文化映画の出發 文化映画監督の立場より(高木俊朗)、数学と映画(高橋進一)、映画「科学する心」を制作して(杉増三郎)、映画批評の現状(今村太平)、小津安二郎論(津村秀夫)、ニュース映画の将来性(林高一)、映画界混沌(津村秀夫)、国民映画に就いて(沢村勉)、日本映画の現状 座談会(室生犀星、内田岐三雄、南部圭之助、谷川徹三、丹羽文雄、飯島正、中村武羅夫)、「村の学校」余録(上野耕三)、文化映画について(飯島正)、改造社「文芸」編輯部・東宝文化映画部主催「文化映画シナリオ第一回募集」_文化映画のシナリオ(津村秀夫) / 文化映画の面白さ(島木健作) / 最近の文化映画(中谷宇)</p>

<p>吉郎)、カメラの位置と角度(滋野辰彦)、映画教育と教育映画(板垣鷹穂)、映画音楽随想(山根根二)、文化映画の娯楽性(檜崎勤)、独対英米の映画宣伝戦(岡崎真雄)、ニュース映画文化映画を語る座談会(安倍能成、木村荘八、中谷宇吉郎、宮沢俊義、森田たま、伊東恭雄、金子義男)、文化映画の苦心座談会「科学する映画」に見る感激と興味のくすくす(渥美輝男、井上亮、亀井文夫、京極高英、下村兼史、田村潔)、南方圏の映画(尾坂力)、大東亜共栄圏 南方の映画界(滝子公作)、映画放談「えいがかいよもやまばなし」(田坂具隆、津村秀夫)、立ち直る日本映画(友田純一郎)、アメリカ映画と文学との交流(清水光)、日本映画界の再建設_劇映画と政治性(倉田文人)/報道カメラマンの位置(杉山平一)/文化映画の行方(今村太平)/実のある文化映画(石本統吉)、映画と考証(溝口健二)、国民映画への要望(権田保之助)、記録映画論(今村太平)、臨戦下の映画界 統合問題はどうか(大場茂)、映画界の革新(津村秀夫)、映画企画論(津村秀夫)、映画新体制の方向(森岩雄)、国民映画への途(川橋喬夫)、日本映画の新動向_映画新体制の方向(不破祐俊)/業者の使命(三橋哲生)/日本映画の動向(今村太平)/映画の新動向(沢村勉)、撮影のない撮影所見物(津村秀夫)、国民映画の行方「父ありき」を読んで(猪俣勝人)、文化映画企画論(津村秀夫)、等。切抜に「日本映画雑誌協会 保存用」「日本映画雑誌協会 蔵書」の角印が押されているものもある。</p>
<p>映公 02-066 新聞切抜 1942年～1943年 映画広告(白系)</p> <p>解説 背表紙に「白系(廣告)」の記載あり。対象年月は1942年4月～1943年5月、対象新聞は、中外商業新聞、報知新聞、東京新聞、産業経済新聞、等。対象作品は、父ありき、第五列の恐怖、待つて居た男、高原の月、虹の道、母子草、大阪町人、日本の母、水滸伝、兄弟会議、木蘭従軍、久遠の笑顔、思出の記、小春狂言、八処女の歌、すみだ川、西遊記(中華映画)/空の神兵、江戸の朝霧、南の風、新雪、南方発達史 海の豪族、翼の凱歌、続南の風、鞍馬天狗、歌ふ狸御殿、おもかげの街、女の手、あなたは狙われてゐる、東洋の凱歌 バタン・コレヒドール攻略戦、三代の盃、二人姿、幽霊大いに怒る、伊那の勘太郎、阿片戦争、青空交響楽、美貌の敵(ドイツ映画)、戦ひの街、祖先お誕生(イタリア映画)、御存じ右門 護る影、陸軍航空戦記、風雪の春、桃太郎の海鷲/闊ふ護送船団、兵六夢物語、家、シガポール総攻撃、あざぎり軍歌、むすめ。</p>
<p>映公 02-067 新聞切抜 1944年 映画広告</p> <p>解説 対象年月は1944年1月～7月、対象新聞は、満洲新聞、満洲日日新聞、東京新聞、大阪朝日新聞、読売報知、東京朝日新聞、日本産業経済新聞、東亜日報、京城日報、神奈川新聞、大阪毎日新聞、大陸日報、西日本新聞、中部日本新聞、北海道新聞、帝国新報、等。対象作品は、剣風練兵館、菊池千本槍 シドニー特別攻撃隊、雛鷺の母、天狗倒し、あの旗を撃て、勲功十字章(ドイツ映画)、お馬は七十七万石、決戦、加藤隼戦闘隊、不沈艦撃沈、父子桜、土俵祭、偉大なる王者(ドイツ映画)、一番美しく、女性航路、血の爪文字、国際密輸団、芝居道、歓呼の町、水兵さん、三尺左吾平、命の港、狼火は上海に揚る、萬世流芳、リュッツォ爆撃隊(ドイツ映画)、五重塔、怒りの海、団十郎三代、高田の馬場前後、三太郎頑張る、ベンガルの嵐、三尺左吾平、還って来た男、日常の戦ひ、激流、小太刀を使ふ女。</p>
<p>映公 02-068 新聞切抜 1944年～1945年 映画広告</p> <p>解説 背表紙に「映画封切館広告」の記載あり。対象年月は1944年4月～1945年3月、対象新聞は、東京新聞、毎日新聞、読売報知、東京新聞、朝日新聞、等。対象作品は、姿三四郎 新版、土俵祭、父子桜、不沈艦撃沈、あの旗を撃て、女性航路、一番美しく、国際密輸団、偉大なる王者(ドイツ映画)、お馬は七十七万石、決戦、加藤隼戦闘隊、血の爪文字、轟沈、芝居道、団十郎三代、高田の馬場前後、三尺左吾平、三太郎頑張る、勝利の日まで、姿なき敵、海の虎、名刀美女丸、海の薔薇、必勝歌、陸軍特別攻撃隊、後に続くを信ず、撃滅の歌、突貫駅長。</p>
<p>映公 02-069 新聞切抜 1944年～1945年 週間別映画広告</p> <p>解説 背表紙に「週間別新聞広告 昭和十九年」の記載あり。対象年月は1944年3月～1945年4月、対象新聞は、東京新聞、東京朝日新聞、京城日報、等。対象事項は、映画館別週間上映映画案内「芸能案内」、「芸能欄・映画・演劇」、等。</p>
<p>映公 02-070 スクラップブック</p> <p>解説 未使用のA4判 Scrap Book(黒)。</p>
<p>映公 02-071 通信切抜 1941年 仏印</p> <p>解説 表紙及び背表紙に「佛印」の記載あり。対象年月は1941年12月、対象通信は不詳。対象事項は、南洋映画協会の拡大強化具体化、「田園交響楽」ハイフォンでの成功、仏印向文化映画撰定成る。</p>
<p>映公 02-072 新聞切抜 1942年～1943年 映画批評</p> <p>解説 表紙裏に「映画批評、評論 主要記事目次」他の記載あり。対象年月は1942年11月～1943年7月、対象新聞は、東京朝日新聞、</p>

大阪朝日新聞、東京新聞、読売報知、大阪毎日新聞、日本産業経済新聞、やまと新聞、等。対象作品及び映画記事（執筆者）は、おもかげの街、英国崩るゝの日、磯川兵助功名嘯、女の手、ハワイ・マレー沖海戦、あなたは狙はれてゐる、東洋の別歌、映画の勝利（大谷竹次郎）、アジア建設の旗手 聖戦一周年の映画人の決意（田坂具隆）、三代の盃、京洛の舞、山まつり梵天唄、二人姿、海洋映画研究会（南部圭之助）、アフレコ前後（小沢栄太郎）、愛の世界、ふるさとの風、焼夷弾、映画分解の考慮（南部圭之助）、歌行燈、秩父の長壽、南方へ送る映画（沢村勉）、憎米英映画の貧困（今日出海）、戦ひの街、映画の技術（上野一郎）、祖先お誕生（イタリア映画）、映画の質向上（飯島正）、御存じ右門 護る影、陸軍航空戦記、新しい理念（岡田晋吉）、華かなる幻想、ハナ子さん、風雪の春、家に三男二女あり、映画の急務（北川象一）、建設の基地、闘ふ護送船団、音楽大進軍、姿三四郎、桃太郎の海鷲、最近の映画と映画界（津村秀夫）、鴨緑江ダム、映画の女（飯田心美）、新人監督二人 颯爽登場 黒澤明 木下恵介、驍北の仔、映画芸術の本質 忘れられた重点・脚本文学（菊池寛）、敵機空襲、兵六夢物語、映画の鑑賞（浅尾忠義）、社長の計算（伊丹万作）、漫画映画へ（今村太平）、家、望楼の決死隊、シンガポール総攻撃、弾丸か玩具か・映画座談会（中村武羅夫、佐生正三郎、波多野敬三、伊奈信男、今村太平）、あさぎり軍歌、高原の村、山西の土地と民、明るい村、新人の活躍（飯島正）、移動映画を阻むもの（永原幸男）、むすめ、二刀流開眼、映画観客の動向（新居格）、漫画映画の理念（政岡憲三）、舞台へ転向（稲垣浩）、映画と台本（森本薫）、海ゆかば、映画の観客（内田峯三雄）、海軍戦記、ニッポンバンザイ、移動映写で（飯田心美）、戦陣に咲く、国民映画の課題（秋山謙蔵）、潜水艦西へ（ドイツ映画）、決戦映画の進路（菊池寛、佐生正三郎、加藤敏雄、中谷博、中村武羅夫）、若き日の歓び、大東亜映画の確立（沢村勉）、男、再封切（伊丹万作）、マライの虎、暖き風、大陸新戦場、法隆寺、サヨンの鐘、漫画映画（今村太平）、報道性と（清水俊二）、上海海軍特別陸戦隊、等。

映公 02-073

新聞切抜 1943年 映画記事 南方・中国・満洲

解説 表紙裏に「映画（南方、中国、満洲）主要記事目次」他の記載あり。対象年月は1943年3月～9月、対象新聞は、東京新聞、やまと新聞、大阪朝日新聞、同盟通信、通信合同、東京朝日新聞、等。対象映画記事（執筆者）は、日本映画社星野辰男南方視察談、『ハワイ・マレー沖海戦』共栄圏各地で好評、ジャワの映画工作活発化、国際観光協会が南方向文化映画製作、馬來で観た映画（本城久雄）、比島の映画工作（中島宝三）、『あの旗を撃て』比島ロケ隊撮影記、『浙贛戦記』大日方伝が製作担当、三社合同の中華電影聯合有限股份公司誕生、ジャワから帰った松井翠声談、家なき天使、萬世流芳、城戸四郎南方映画工作土産話、ビルマ映画工作、映画配給社南方支社長桑原健二、映画配給社南方支社長内海信二、大陸映画聯盟、日本映画社マニラ支社長安原正喜、ボルネオの映画工作、日本映画の反響 大華大戲院から（千葉俊一）、川喜多基金、南方映画工作要綱、等。

映公 02-074

新聞切抜 1942年～1943年 映画記事 南方映画工作・他

解説 表紙裏に「主要記事目次（南方映画工作）」他の記載あり。対象年月は1942年12月～1943年7月、対象新聞は、同盟新聞、東京朝日新聞、大阪毎日新聞、やまと新聞、神奈川新聞、読売報知、等。対象映画記事（執筆者）は、南方映画選定委員会、タイのピピン首相の日本映画紹介、日本映画に学ぶビルマ、香港映画界の新体制、日本映画学校開校、『シンガポール総攻撃』『マレーの虎』併行撮影、フィルム減配とその対策（飯島正）、朝鮮半島のフィルム損傷統廃、映画博物館（那波光正）、文化映画道場開催、『マレー戦記』を少年刑務所で上映、国民映画脚本入賞者、戦ふ映画（植村四郎）、大東亜共栄圏（泰国、比島、ジャワ、ビルマ）の映画スター、映画配給社社長植村泰二の南方視察談、『望楼の決死隊』現地ロケ記、観客の動向（井関雄雄）、『陸軍航空戦記』を語る（坂斎小一郎）、フィリピン映画工作の現状（滝井孝二）、映画人のみたび比島 現地座談会（大河内伝次郎、河津清三郎、月田一郎、真木順、滝村和男）、『シンガポール総攻撃』ロケ隊元気帰還の土産話、大映新社長菊池寛と一問一答、中支の巡回映写班、『サヨンの鐘』台湾ロケ、『敵機空襲』雪中ロケ、若き姿、興行協会の任務（浅尾忠義）、企画審議会、映画街を（中谷博）、海軍戦記、折鶴作戦記録映画『働きつゝ建設へ』連絡東上の大日方伝伍長談、加藤隼戦隊の企画（山本嘉次郎談）、映画検閲の強化『若き日の歓び』と『戦陣に咲く』檜玉に、大東亜映画の確立（沢村勉）、良い作品を（辻久一）、『花咲く港』天草ロケ報告、支那から映画留学生、映画科学研究所、作家の喜び（八尋不二）、松竹京都の新機構・マキノ三兄弟、等。

映公 02-075

通信切抜 1943年～1944年 同盟通信 朝鮮版（検閲・製作・配給・興行）

解説 背景紙に「朝鮮同盟通信（検閲・製作・配給・興行）I」の記載あり。対象年月は1943年7月～1944年2月。分類項目（タックインデックス）は、検閲、製作、配給、興行。執筆者及び映画作品は、朝鮮総督府通訳官図書課映画検閲室 清水正蔵、若き姿、僕達の飛行機工場、朝鮮海峡、朝鮮総督府図書課検閲官 池田国雄、母の胸、朝鮮映画製作会社常務 中田晴康、朝鮮映画製作会社秘書 池浦南洋、同盟通信社京城支社映画係 杉野伊知郎、巨鯨伝、全鮮五大都市封切映画成績一覧表（4月～9月）、朝鮮映画配給社常務理事 岡田順一、朝鮮総督府図書課長 森浩、朝鮮興行聯合会常務理事 成清竹松。同盟通信社京城支社の所在地は京城府中区太平通一丁目三十一番地。

映公 02-076（映画配給社資料）

通信切抜 1943年 同盟通信 朝鮮版（巡回映写・雑）

解説 背景紙に「朝鮮同盟通信（巡回映写・雑）II」の記載あり。対象年月は1943年7月～12月。分類項目（タックインデックス）は、巡回映写、雑・芸能。執筆者は、朝鮮総督府情報課映画係班長 面高武夫、朝鮮放送協会囁託 田中初夫、朝鮮映配主催宣伝大会、

<p>日本演劇協会派遣文報委員 関口次郎、大映京城出張所長 山村信三、大映京城出張所員 三好光。なお未添付の「同盟通信 朝鮮映画芸能」第2929号(1944年1月26日発行 内容細目:全鮮六大都市二月作品一覧表)の裏面に「社團法人映画配給社文書課受付19.2.1」の丸印があることからこのスクラップブックが映画配給社のものであることが推定される。</p>
<p>映公 02-077 雑誌切抜 1943年 文化映画広告</p> <p>解説 背表紙に「文化映画雑誌広告 No2(昭和十八年度)」の記載あり。対象年月は1943年1月～12月。対象雑誌は、文芸新潮、知性、日本映画、プレイガイド、生産青年、国民文学、科学画報、航空朝日、通信合同、映画技術、映画評論、図解科学、文化映画、科学朝日、科学知識、アサヒグラフ、若草、新日本文化、黒潮、ドイツ文化資料、台湾芸術新報、映画之友、週刊少国民、少国民文化、映画、科学グラフ、文芸読物、日本演劇、等。対象作品は、桃太郎の海鷲、闘ふ護送船団、逞しき草原、東大寺、棉花、移動映写隊、仔馬、驥北の仔、敵機 第二輯、明るい村、山西の土地と民、空往く少年通信兵、大型焼夷弾、新生広東、高原の村、わが本土を狙ふもの、上海海軍特別陸戦隊、ニッポンバンザイ、マンガ映画決戦大会、大陸新戦場 浙贛作戦の記録、必勝への誓ひ、防毒救護、白茂線、山に戦ふ、昭和十九年、生駒山滑空場、税と生活、春に備へて、北の健兵、戦ふ少国民 夏季鍛錬篇、田植競争、武蔵野に鍛ふ、供米記、北の兵隊、勝つために、知られざる戦士、北の航空基地、海洋教室、決戦に立つ山国、国土の固め、この一冬、等。</p>
<p>映公 02-078 新聞切抜 1941年 新映画評 試写室各社評</p> <p>解説 表紙に「新映画評 試写室各社評」の記載あり。対象年月は1941年3月～8月、対象新聞は、都新聞、中外商業新報、報知新聞、国民新聞、満洲日日新聞、朝日新聞、読売新聞、等。対象作品は、脂粉追放、柳生月影抄、解決、娘旅芸人、愛憎乱麻、江戸の青空、女の宿、潜水艦1号、英雄峠、白鷺、結婚の生態、闘魚、他。</p>
<p>映公 02-079 新聞切抜 1941年 外画評</p> <p>解説 表紙に「外画評」の記載あり。対象年月は1941年4月～8月、対象新聞は、都新聞、国民新聞、読売新聞、等。対象作品は、邂逅、七つ擲る、ジェロニモ、夜のタンゴ、白鳥の死、砂塵、勝利の歴史、他。</p>
<p>映公 02-080 新聞切抜 1941年 外画ニュース</p> <p>解説 表紙に「外画ニュース」の記載あり。対象年月は1941年5月～8月、対象新聞は、都新聞、国民新聞、報知新聞、満洲日日新聞、読売新聞、等。対象事項は、日伊映画協定、新映画評「日本映画史」、中華映画、日独映画提携、米画輸入絶望、映画配給統制、映写技士不足、他。</p>
<p>映公 02-081 新聞切抜 1941年 随筆</p> <p>解説 表紙に「随筆」の記載あり。対象年月は1941年4月～5月、対象新聞は、都新聞。対象記事(執筆者は、映画と女性の娯楽(神近市子)、ニュース映画の凡調(村上忠久)、「勝利の歴史」の構成(飯島正)、映画の音楽(兼常清佐)、演出といふこと(伊丹万作)、ドイツ映画の一面(林文三郎)、支那映画の現状(菅見恒夫)、文化映画と政治性(田中純一郎)、巡回映画の検討(中村武羅夫)、記録映画の演技(今村太平)。</p>
<p>映公 02-082 新聞切抜 1941年 シナリオ 映画時評</p> <p>解説 表紙に「シナリオ 映画時評」の記載あり。対象年月は1941年4月～8月、対象新聞は、満洲日日新聞、都新聞、報知新聞、読売新聞、朝日新聞、等。対象作品及び記事(執筆者は)、映画時評 満映を中心に(江夏英太郎)、君と僕、「海を渡る祭礼」ロケ中の事故、武蔵費平、撮影見学(井伏鱒二)、女学生記、簪、北極光、等。</p>
<p>映公 02-083 新聞切抜 1941年 官評ニュース</p> <p>解説 表紙に「官評ニュース」の記載あり。対象年月は1941年4月～8月、対象新聞は、都新聞、読売新聞、報知新聞、等。対象事項は、外画生フィルム配給割当、映画奉公隊、映画統制、文部省推薦映画問題、他。</p>

3 調査資料

映公 03-001 (映画配給社資料)
<p>調査部資料 第9輯 昭和17年8月9月分 全国歩合館興行収入入場人員調査表 附9月分諸統計表</p> <p>- 社団法人映画配給社調査部編 135p</p>
映公 03-002 (映画配給社資料)
<p>調査部資料 第13輯 昭和17年10月、11月、12月分 全国歩合館興行収入入場人員調査表</p> <p>発行所 社団法人映画配給社総務局調査部統計課 1943.03.31 156p</p> <p>解説 巻末に「調査部資料」(旧統計資料)既刊種目一覧表あり。</p>
映公 03-003 (映画配給社資料)
<p>映写機状態検査書 東京都地区 甲級 乙級</p> <p>解説 「社団法人映画配給社業務局関東支社技術課」作成の検査書に各映画館が映写機や増幅器、映写電源、ランプハウス等の名称、型式、設置年月日、修理年月日、状態等を詳細に記録したもの。状態によって第2区甲級、第3区乙級、第2区乙下級、第3区乙下級に分かれ、該当映画館は日本劇場、日比谷映画劇場ほか約190館、検査年は1943年～1944年(主に1943年)。甲乙丙丁とは映写機の状態査定級。</p>
映公 03-004 (映画配給社資料)
<p>映写機状態検査書 地方 甲級 乙級</p> <p>解説 「社団法人映画配給社業務局関東支社技術課」作成の検査書に各映画館が映写機や増幅器、映写電源、ランプハウス等の名称、型式、設置年月日、修理年月日、状態等を詳細に記録したもの。状態によって神奈川県第1区甲級、静岡県第1区甲級、群馬県第2区甲級、埼玉県第2区甲級、栃木県甲級、長野県乙級、長野県乙下級、千葉県第1区乙級、茨城県乙級、茨城県乙下級、埼玉県第2区乙級、群馬県第2区乙級、栃木県第2区乙級、福島県乙級、福島県乙下級、新潟県第3区乙級、新潟県第3区乙下級、宮城県第3区乙級、宮城県第3区乙下級、山形県第3区乙級、山形県第3区乙下級に分かれ、該当映画館は約141館、検査年は1942年～1944年(主に1943年)。</p>
映公 03-005 (映画配給社資料)
<p>映写機状態検査書 神奈川 静岡 乙級</p> <p>解説 「社団法人映画配給社業務局関東支社技術課」作成の検査書に各映画館が映写機や増幅器、映写電源、ランプハウス等の名称、型式、設置年月日、修理年月日、状態等を詳細に記録したもの。状態によって神奈川県第1区乙級、神奈川県第1区乙下級、静岡県第1区乙級、静岡県第1区乙下級に分かれ、該当映画館は約92館、検査年は1942年～1944年(主に1943年)。</p>
映公 03-006 (映画配給社資料)
<p>映写機状態検査書 東京都地区 他地方 丙級</p> <p>解説 「社団法人映画配給社業務局関東支社技術課」作成の検査書に各映画館が映写機や増幅器、映写電源、ランプハウス等の名称、型式、設置年月日、修理年月日、状態等を詳細に記録したもの。状態によって都内第2区丙級、都内第3区丙級、都内第1区丙級、神奈川県第1区丙及丁級、静岡県・埼玉県・茨城県・福島県・長野県・栃木県・群馬県・山形県・宮城県・新潟県の丙級に分かれ、該当映画館は約156館、検査年は1942年～1944年(主に1943年)。</p>
映公 03-007 (映画配給社資料)
<p>東京府下及市内 CD 級館 [一覧表]</p> <p>解説 社団法人映画配給社の罫紙に手書き。技術課第一係の押印あり。1942年に行った映写機状態調査に基づく査定一覧表。C級館45館、D級館39館。</p>
映公 03-008 (映画配給社資料)
<p>地方 C,D 級館調査控</p> <p>解説 社団法人映画配給社の罫紙に手書き。技術課第一係の押印あり。1942年に行った映写機状態調査に基づく査定一覧表。C級館204館、D級館62館。調査対象県は神奈川、静岡、山梨、長野、千葉、埼玉、茨城、群馬、栃木、新潟、山形、岩手、青森、秋田、宮城、福島。</p>
映公 03-009 (大日本興行協会資料)
<p>大日本興行協会 劇場・演芸場調査表 北海地方(北海道・樺太)</p> <p>解説 表紙に「北海地方 北海道、樺太」「副」の記載あり。「財団法人大日本興行協会」作成の「劇場・演藝場調査表」(1943年8月31日現在、裏面は記入上の注意)に各劇場が、名称、所在地、電話番号、興行種別(演劇、演芸、映画、兼用の別)、興行場経営者、興行経営者、建築様式、総敷地、映写設備、定員、使用人、入場料、昭和十七年度成績表(興行日数、入場者数、興行収入)等を記入。北海道は29館、樺太は38館。</p>

映公 03-010 (大日本興行協会資料)
大日本興行協会 劇場・演芸場調査表 東北地方 (青森・秋田・岩手・宮城・福島・山形)
解説 表紙に「東北地方 青森、秋田、岩手、宮城、福島、山形」副の記載あり。「財團法人大日本興行協会」作成の「劇場・演芸場調査表」(1943年8月31日現在、裏面は記入上の注意)に各劇場が、名称、所在地、電話番号、興行種別(演劇、演芸、映画、兼用の別)、興行場経営者、興行経営者、建築様式、総敷地、映写設備、定員、使用人、入場料、昭和十七年度成績表(興行日数、入場者数、興行収入)等を記入。青森は21館、秋田は61館、岩手は39館、宮城は8館、福島は64館、山形は38館。
映公 03-011 (大日本興行協会資料)
大日本興行協会 劇場・演芸場調査表 関東地方 (東京・神奈川・千葉・埼玉・茨城・群馬・山梨)
解説 表紙に「関東地方 東京、神奈川、千葉、埼玉、茨城、群馬、栃木、山梨」副の記載あり。「財團法人大日本興行協会」作成の「劇場・演芸場調査表」(1943年8月31日現在、裏面は記入上の注意)に各劇場が、名称、所在地、電話番号、興行種別(演劇、演芸、映画、兼用の別)、興行場経営者、興行経営者、建築様式、総敷地、映写設備、定員、使用人、入場料、昭和十七年度成績表(興行日数、入場者数、興行収入)等を記入。東京は73館、神奈川は29館、千葉は49館、埼玉は8館、茨城は70館、群馬は19館、山梨は23館。山梨県の小笠原座は劇場写真を添付。なお栃木県の調査表はない。
映公 03-012 (大日本興行協会資料)
大日本興行協会 劇場・演芸場調査表 東海地方 (愛知・静岡・岐阜・三重)
解説 表紙に「東海地方 愛知、静岡、岐阜、三重」副の記載あり。「財團法人大日本興行協会」作成の「劇場・演芸場調査表」(1943年8月31日現在、裏面は記入上の注意)に各劇場が、名称、所在地、電話番号、興行種別(演劇、演芸、映画、兼用の別)、興行場経営者、興行経営者、建築様式、総敷地、映写設備、定員、使用人、入場料、昭和十七年度成績表(興行日数、入場者数、興行収入)等を記入。愛知は81館、静岡は70館、岐阜は50館、三重は20館。静岡県の静岡歌舞伎座、松竹座、新栄館(ともに静活会社経営)、三重県の広栄座は劇場写真を添付。
映公 03-013 (大日本興行協会資料)
大日本興行協会 劇場・演芸場調査表 北陸地方 (長野・新潟・富山・福井・石川)
解説 表紙に「北陸地方 長野、新潟、富山、福井、石川」副の記載あり。「財團法人大日本興行協会」作成の「劇場・演芸場調査表」(1943年8月31日現在、裏面は記入上の注意)に各劇場が、名称、所在地、電話番号、興行種別(演劇、演芸、映画、兼用の別)、興行場経営者、興行経営者、建築様式、総敷地、映写設備、定員、使用人、入場料、昭和十七年度成績表(興行日数、入場者数、興行収入)等を記入。長野は43館、新潟は38館、富山は10館、福井は17館、石川は18館。新潟県の都座は劇場写真(2葉)を添付。
映公 03-014 (大日本興行協会資料)
大日本興行協会 劇場・演芸場調査表 近畿地方 (大阪・京都・奈良・和歌山)
解説 表紙に「近畿地方 大阪、京都、兵庫、滋賀、奈良、和歌山」副の記載あり。「財團法人大日本興行協会」作成の「劇場・演芸場調査表」(1943年8月31日現在、裏面は記入上の注意)に各劇場が、名称、所在地、電話番号、興行種別(演劇、演芸、映画、兼用の別)、興行場経営者、興行経営者、建築様式、総敷地、映写設備、定員、使用人、入場料、昭和十七年度成績表(興行日数、入場者数、興行収入)等を記入。大阪は71館、京都は49館、奈良は27館、和歌山は27館。大阪府の第一国光席、正宗館、大阪劇場、浪花座、愛進館、東亜劇場は劇場写真を添付。なお兵庫県、滋賀県の調査表はない。
映公 03-015 (大日本興行協会資料)
大日本興行協会 劇場・演芸場調査表 中国地方 (鳥根・広島・山口)
解説 表紙に「中国地方 鳥取、島根、岡山、広島、山口」副の記載あり。「財團法人大日本興行協会」作成の「劇場・演芸場調査表」(1943年8月31日現在、裏面は記入上の注意)に各劇場が、名称、所在地、電話番号、興行種別(演劇、演芸、映画、兼用の別)、興行場経営者、興行経営者、建築様式、総敷地、映写設備、定員、使用人、入場料、昭和十七年度成績表(興行日数、入場者数、興行収入)等を記入。鳥根は6館、広島は54館、山口は38館。島根県の相生座は劇場写真を添付。なお鳥取県、岡山県の調査表はない。
映公 03-016 (大日本興行協会資料)
大日本興行協会 劇場・演芸場調査表 四国地方 (徳島・香川・高知)
解説 表紙に「四国地方 徳島、香川、愛媛、高知」副の記載あり。「財團法人大日本興行協会」作成の「劇場・演芸場調査表」(1943年8月31日現在、裏面は記入上の注意)に各劇場が、名称、所在地、電話番号、興行種別(演劇、演芸、映画、兼用の別)、興行場経営者、興行経営者、建築様式、総敷地、映写設備、定員、使用人、入場料、昭和十七年度成績表(興行日数、入場者数、興行収入)等を記入。徳島は35館、香川は35館、高知は39館。なお愛媛県の調査表はない。
映公 03-017 (大日本興行協会資料)
大日本興行協会 劇場・演芸場調査表 九州地方 (福岡・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)
解説 表紙に「九州地方 福岡、長崎、佐賀、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄」副の記載あり。「財團法人大日本興行協会」作成の「劇場・演芸場調査表」(1943年8月31日現在、裏面は記入上の注意)に各劇場が、名称、所在地、電話番号、興

<p>行種別（演劇、芸芸、映画、兼用の別）、興行場経営者、興行経営者、建築様式、総敷地、映写設備、定員、使用人、入場料、昭和十七年度成績表（興行日数、入場者数、興行収入）等を記入。福岡は65館、長崎は29館、熊本は14館、大分は27館、宮崎は21館、鹿児島は13館。福岡県の日吉座は劇場写真を、福岡県の杷木劇場は劇場正面図を添付。なお佐賀県、沖縄県の調査表はない。</p>
<p>映公 03-018 〈映画配給社資料〉 市町村別人口当り月平均入場人員比較表 昭和17年度前半期</p> <p>解説 表紙に「昭和十七年度前半期 市町村別人口当り月平均入場人員比較表 / 社団法人映画配給社調査部統計課」の記載あり。関東支社、関西支社、中部支社、九州支社、北海道支社の支社別統計表。映画館総数は2,209館、前半期月平均入場人員総計は31,562,149人。</p>
<p>映公 03-019 文部省直轄学校ニ於ケル活動写真利用状況調 昭和6年3月末</p> <p>解説 調査回答学校は96校。表紙に「昭和六年三月末 文部省直轄学校ニ於ケル活動写真利用状況調」の記載あり。調査事項は6項目、(1) 映画利用の有無、(2) 映写暗室（講堂等）の有無、(3) 映写機の有無、(4) 撮影機の有無、(5) 所有フィルムの有無、(6) 鑑賞・研究団体の有無。</p>
<p>映公 03-020 映画人名カード</p> <p>解説 表面に氏名（本名）、生年月日、出身地、身分資格、職名、住所、電話、備考欄があり、裏面に学歴、略歴欄がある。記入分は東宝の社員114名。</p>
<p>映公 03-021 映画製作用資材調査表（松竹・大映分） 昭和18年度</p> <p>解説 表紙には「昭和拾八年度 映画製作用資材調査表（東宝松竹大映分）調整課保管」とあるが、東宝分はない。「調査表」には「需要部調整課」とあり「飯田 18.5.20」印等があることから、1943年3月に設立された日本映画資材統制株式会社への提出資料と思われる。同社需要部調整課の部長は飯田義郎。各社撮影所別の内訳は、(1) 松竹株式会社大船撮影所（責任者 城戸四郎）、(2) 松竹株式会社京都（下鴨）撮影所（責任者 乗竹龍樹）、(3) 松竹株式会社京都（太秦）撮影所（責任者 芦田勝至）、(4) 大日本映画製作株式会社東京撮影所（責任者 須田鐘太）、(5) 大日本映画製作株式会社京都撮影所（責任者名なし）、(6) 大日本映画製作株式会社横浜東洋現像所（責任者 西部）。</p>

4. 目録

<p>映公 04-001 〈日本映画雑誌協会資料〉 封切作品目録 1941年～1942年</p> <p>解説 横罫紙（一部に「日本映画雑誌協会 16.4-1000 京橋」の記載あり）に作品情報を列記。作品情報は、題名、巻数・メートル数、映画旬報紹介号・批評号・興行価値、演出者、封切年月日、封切館、広告掲載号数等を記入。1940年12月末～1942年2月頃までの作品。会社別分類は、日活多摩川、日活京都、新興東京、新興京都、大都、松竹大船、大日本教育映画協会、松竹京都、興亜映画、東宝東京、東宝京都、東京発声、南旺映画、大宝、宝塚、極東、全勝、文化映画、日本映画貿易、三映社、外国映画・洋画、東和商事映画部、春秋映画、高麗映画、旭日映画、東日・大毎映画部、皇国映画、皇国映画向島撮影所、三木商事映画部、ミツバ貿易商会、万国合資会社。但し年代順等の排列に乱れあり。</p>
<p>映公 04-002 〈日本映画雑誌協会資料〉 封切作品目録 1941年～1943年</p> <p>解説 横罫紙（一部に「日本映画雑誌協会 16.4-1000 京橋」の記載あり）に作品情報を列記。作品情報は、題名、巻数・メートル数、映画旬報紹介号・批評号・興行価値、演出者、封切年月日、封切館、広告掲載号数等を記入。1941年2月～1943年12月頃までの作品。会社別分類は、松竹大船、松竹京都、東宝東京、大映、文化映画、興亜商事、高麗映画協会、朝鮮映画、中華映画、満洲映画協会、洋画、外国映画社、東和商事。但し年代順等の排列に乱れあり。</p>
<p>映公 04-003 〈日本映画雑誌協会資料〉 会社別監督作品目録（大都・全勝） 1935年～1940年</p> <p>解説 横罫紙に作品情報を列記。作品情報は、題名、キネマ旬報紹介号・批評号、巻数・メートル数、封切年月日、等を記入。1935年1月頃～1940年11月頃までの作品。採録監督は、大都映画=ハヤブサヒデト、山内俊英、八代毅、和田敬三、小崎政房、北賢二、田坂実、宇佐美彪、水木栄一、益田晴夫、中島宝三、石山稔、大伴龍三、白井戦太郎、後藤岱山（後藤昌信）、佐伯幸三、弥刀研二、大都文化映画部 / 全勝キネマ=山本松男（橋本松男）、熊谷草弥、金田繁、姓丸浩、藤本修一郎、山田兼則、小林二三夫、佐藤樹一郎、仏生寺弥作、志波西果、三枝源次郎、宮田味津三 / 永富映次郎、鈴木伝明、雑。</p>

<p>映公 04-004 〈大日本映画協会資料〉</p> <p>大日本映画協会所蔵 日本映画雑誌原簿</p> <p>解説 「社団法人大日本映画協会」の映画人名簿用の印刷罫紙の裏紙を再利用して、誌名や所蔵号数を記入。誌名の50音順に配列。映画以外の雑誌も末尾にあり、所蔵号数は1945年まで記載されているものもある。</p>
<p>映公 04-005 〈大日本映画協会資料〉</p> <p>大日本映画協会所蔵 外国映画雑誌調査票</p> <p>解説 「社団法人大日本映画協会」の映画人名簿用の印刷罫紙の裏紙を再利用。「大日本映画協会所蔵 日本映画雑誌原簿」と同時に作成されたものである可能性がある。</p>
<p>映公 04-006 〈映画配給社資料〉</p> <p>日本映画雑誌調査票（映画配給社罫紙使用）</p> <p>解説 「社団法人映画配給社」の罫紙を使用。一部、映画以外の雑誌や書籍を含む。1945年発行のものまで調査。</p>
<p>映公 04-007 〈映画配給社資料〉</p> <p>外国映画雑誌調査票（映画配給社罫紙使用）</p> <p>解説 「社団法人映画配給社」の罫紙を使用。</p>
<p>映公 04-008 〈大日本映画協会資料〉</p> <p>情報局委嘱国民映画応募脚本目録 昭和19年度</p> <p>解説 表紙に「昭和十九年度 応募脚本目録 社団法人大日本映画協会」の記載あり。「社団法人大日本映画協会」製の罫紙に応募作品の題名、筆名、本名、職業、現住所、枚数、備考（ジャンル）を列記し、後半には応募者の職業別、地域別の統計及び内容傾向の考察が記してある。応募総数は79篇。</p>
<p>映公 04-009</p> <p>映画配給社封切作品一覧表</p> <p>解説 1942年4月に映画配給社による紅白系の一元配給が開始された時期から1943年2月までの手書きの作品リストのノート。紅白系のほか、松竹・東宝・大映の会社別リストもある。</p>
<p>映公 04-010 〈キネマ旬報社調査部資料〉</p> <p>キネマ旬報社所蔵 映画スチル在庫原簿</p> <p>解説 背表紙に「邦画スチル在庫原簿 株式会社キネマ旬報社」の記載あり。日本映画のスチル写真を映画会社別に分類、作品題名、製作年度を列記。外国映画のスチルは作品題名のいろは順に、キネマ旬報紹介号数、写真の判型を列記。他に写真原版、単行本、ポスター（日本映画、外国映画）の目録もある。</p>

5. 内部文書

<p>映公 05-001 〈大日本映画協会資料〉</p> <p>大日本映画製作株式会社 企画審議会議事録 第19回</p> <p>解説 開催日時は1943年11月17日、午前10時半開会、午後5時閉会。場所は大映本社会議室、出席者は菊池〔寛〕、永田〔雅一〕、河合〔龍斎〕、六車〔修〕、曾我〔正史〕、薦野〔直実〕、鶴田〔孫兵衛〕、中代〔富士夫〕、野田〔順一〕、名和〔米三郎〕、武田〔昌夫〕、黒岩〔健〕〔健而〕、黒岩〔末〕〔末吉〕、土井〔逸雄〕（以上本社）、須田〔鐘太〕、山根〔啓司〕、沖津〔一郎〕（以上東京撮影所）、藤井〔朝太〕、松山〔英夫〕、酒井〔箴〕（以上京都撮影所）、加賀〔四郎〕（大阪支店）、山村〔信三〕（朝鮮出張所）。</p>
<p>映公 05-002 〈大日本映画協会資料〉</p> <p>大日本映画製作株式会社 企画審議会議事録 第29回</p> <p>解説 開催日時は1944年9月12日、午前10時半開会。場所は大映本社会議室、出席者は菊池、永田、河合、六車、曾我、鶴田、中代、名和、野田、武田、黒岩〔末〕、土井、多根〔茂〕、沖津、山根、加賀、藤井、松山、服部〔静夫〕、山村、大石。表紙に「伊奈部長殿」の書き込みあり。伊奈部長とは大日本映画協会企画部長の伊奈信男のこと。</p>
<p>映公 05-003 〈大日本映画協会資料〉</p> <p>大日本映画製作株式会社 企画審議会議事録 第30回</p> <p>解説 開催日時は1944年10月12日、午前10時開会。場所は大映本社会議室、出席者は菊池、永田、河合、六車、曾我、薦野、鶴田、中代、名和、野田、武田、黒岩、多根、土井、沖津、須田、山根、加賀、松山、叶〔善治郎〕。表紙に「伊奈部長殿」の書き込みあり。</p>

映公 05-004 (大日本映画協会資料)
大日本映画製作株式会社 企画審議会議事録 第 31 回
<p>解説 開催日時は 1944 年 11 月 11 日、午前 10 時開会。場所は大映本社会議室、出席者は菊池、永田、河合、六車、曾我、鶴田、名和、野田、中代、武田、土井、多根、黒岩、沖津、須田、山根、藤井、松山、岡田 [正史]、大石、山村。『狼火は上海に揚る』『かくて神風は吹く』の完成報告などが議題になる。表紙に「伊奈部長殿」の書き込みあり。</p>
映公 05-005 (大日本映画協会資料)
大日本映画製作株式会社 企画審議会議事録 第 32 回
<p>解説 開催日時は 1945 年 1 月 12 日、午前 10 時開会。場所は大映本社会議室、出席者は菊池、永田、河合、薦野、六車、曾我、名和、野田、中代、武田、黒岩、土井、多根、沖津、須田、山根、加賀、酒井、松山、岡田、大石。表紙に「伊奈部長殿」の書き込みあり。</p>
映公 05-006 (大日本映画協会資料)
大日本映画製作株式会社 企画審議会議事録 第 33 回
<p>解説 開催日時は 1945 年 2 月 20 日、午前 10 時開会。場所は大映本社会議室、出席者は菊池、永田、河合、六車、曾我、鶴田、名和、野田、沖津、川越、武田、黒岩、土井、町田、須田、山根、加賀、酒井、叶、大石、山村。巻末の 1944 年 4 月から 12 月までの封切映画「成績順位表」によれば大映の「かくて神風は吹く」が興行成績で 1 位となっている。</p>
映公 05-007 (大日本映画協会資料)
朝鮮映画界日誌 附諸統計 昭和 16 年度
<p>解説 表紙に「昭和十六年度 朝鮮映画界日誌 附諸統計」の記載あり。「社団法人大日本映画協会」図書ラベル番号「347-172」。標題紙には「昭和十七年 映画年鑑(朝鮮の部) 原稿 岡崎七郎」とあり、次頁の目次には、映画界日誌、映画政策の動向、朝鮮総督府推薦映画一覧、総督府学務局選定児童生徒向映画一覧、指定上映(資料ナシ)、事業界概観、製作界概観、作品総覧、巡回映写(資料ナシ)、映画関係統計 検閲関係 事業関係 興業関係、附=朝鮮映画人協会規約 技能証明書発行規程 映画製作従事者登録名簿 社団法人朝鮮映画啓発協会定款とある。日本映画雑誌協会編纂『映画年鑑 昭和 17 年度版』の原稿と思われるが、活字化された段階で変更・削除がある(特に朝鮮映画界日誌の部分)。出版された映画年鑑は無署名。岡崎七郎は朝鮮映画会社製作『土に実る』(監督 安夕影、1941 年 12 月完成)の原作・構成員。目次にだけ記載されているものもあるので、以下実際にあるものは、(1) 映画界日誌、(2) 昭和十六年 自一月至十二月 映画検閲統計表(映画年鑑にある朝鮮総督府映画検閲統計とは異なる)、(3) 娯楽劇中種別表(映画年鑑になし)、(4) 京城に於ける興行成績累年比較(映画年鑑になし)、(5) 京城封切館入場者状況調(映画年鑑になし)、(6) 社団法人朝鮮映画啓発協会定款(映画年鑑になし)、(7) 朝鮮映画人協会規約(映画年鑑になし)、(8) 技能証明書発行規程 朝鮮映画人協会 附履歴書様式(映画年鑑になし)、(9) 映画製作従事者登録名簿。</p>
映公 05-008 (大日本映画協会資料)
文化映画関係書類 1944 年
<p>解説 表紙に「文化映画関係書類」の記載あり。資料には「城戸次長殿」と宛名が手書きで書かれているものが多く、元は大日本映画協会事務局次長の城戸四郎が所有していたものと思われ、書き込みも彼による可能性がある。資料の内訳は、(1) 文化映画各社企画意図別表 昭和 19 年度 社団法人大日本映画協会企画部、(2) 製作中作品一覧表 理研科学映画株式会社 1944 年 3 月 1 日現在、(3) 精兵の礎 [採録台本] 製作：毎日新聞社 提供：理研科学映画 構成・演出：野口徳次 演奏指導：戸山陸軍学校 6 巻、(4) 文化映画各社企画意図別表 企画中ノモノ B、(5) 文化映画各社企画意図別表 撮影中ノモノ A、(6) 文化映画各社 完成セルモノ / 撮影中ノモノ / 企画中ノモノ 1944 年 4 月 5 日現在、(7) 企画脚本審査委員会ニ於テ審査済ノ文化映画 1944 年 4 月 10 日現在、(8) 映協 [大日本映画協会] 調 参考資料第 7 号(昭和 19 年 4 月 27 日) 昭和 18 年度封切映画・封切館興行収入並入場者数一覧、(9) 映協調 参考資料第 8 号(昭和 19 年 4 月 27 日) 昭和 18 年度封切文化映画一覧、(10) 描画映画懇談会資料 1944 年 5 月 6 日、(11) 企調審査委員会提出作品一覧 文化映画 1944 年 5 月 20 日現在、(12) 文化映画「はとむぎ」企画概要、(13) 文化映画意図別各社合計本数 1944 年 6 月 1 日現在、(14) 文化映画企画報告書を受理せる作品の意図及び素材、(15) 陸海軍関係文化映画作品一覧 1944 年 6 月 30 日現在、(16) 第 4 回時事映画懇談会資料 1944 年 6 月 30 日現在 [日本ニュース] 第 210 号～第 213 号、(17) 昭和 18 年度封切 時事映画内容分類表 自第 133 号 至第 185 号 [大日本映画協会企画部] 文化映画課調、(18) 時事映画分類表 187 号—217 号、(19) 文化映画「企画」審査結果報告 [1944 年]8 月 31 日現在、(20) 文化映画「脚本」審査結果報告 [1944 年]8 月 31 日現在、(21) 文化映画分類表 昭和 19 年度 [大日本映画協会企画部] 文化映画課調 1944 年 9 月 15 日現在、(22) 技術映画(指導及記録)一覧 昭和 19 年度 1944 年 11 月 1 日調、(23) 企画脚本審査委員会承認「企画」「脚本」一覧表 [1944 年] 4 月以降 11 月 10 日現在 [大日本映画協会企画部] 文化映画課、(24) 文化映画分類表 [1944 年] 11 月 20 日 [大日本映画協会企画部] 文化映画課調、(25) 企画脚本審査委員会結果報告(文化映画) [1944 年] 11 月 17 日以降— [1945 年] 1 月末日、(26) 文化映画製作者(以下業者トス) 整理参考資料 内容は、1943 年初めに、文化映画業者 35 社(実際の業者名はこれより多い)を 3 社(日本映画社以外の朝日映画社、電通映画社、理研科学映画の 3 社)に統合した過程や整理に応じない業者の現状、最終的な整理方法を記す。末尾の日付は 1945 年 3 月 7 日、名義人は社団法人大日本映画協会理事長 城戸四郎。</p>

映公 05-009 (大日本映画協会資料)
大日本映画協会 映画脚本講習会 挨拶 城戸四郎
解説 表紙に「昭和十九年三月十五日 城戸四郎氏」と記載。大日本映画協会主催の映画脚本講習会の初日に、協会の常務理事である城戸四郎が講習会の趣旨について挨拶した講演の採録原稿、出版を見越して鉛筆で修正が入っている。映画脚本講習会は3月15日より6月14日まで毎週水曜日と金曜日に開講された。付属資料：「第一回映画文化講座時間表」の裏面に手書きで、講習会の他の講演者と題目の覚書きが以下のように記されている。城戸四郎—国民大衆と映画、井上[清—情報局第四部] 芸能課長、菊池寛—材料のつかみ方、川口松太郎—脚本構成論、野田高梧—脚本の構成(骨組)、飯島正—映画と文学、伊奈信男—企劃の方向、津村秀夫—国民大衆と映画 映画の素材を何処に求むべきか、依田義賢—シネリオ、島津保次郎—脚本は如何に映画化されるか、八木隆一郎—演劇と映画の素材、高田保。
映公 05-010 (大日本映画協会資料)
大日本映画協会 映画脚本講習会 挨拶 井上清一
解説 表紙に「昭和十九年三月十五日 大日本映画協会 映画脚本講習会 情報局芸能課長 井上清一氏」と記載。講演の採録原稿、出版を見越して修正が入っている。
映公 05-011 (大日本映画協会資料)
大日本映画協会 映画脚本講習会 講演 菊池寛
解説 表紙に「昭和十九年三月十七日 映画脚本講習会 菊池寛氏」と記載。講演の採録原稿、出版を見越して修正が入っている。2部構成。
映公 05-012 (大日本映画協会資料)
大日本映画協会 映画脚本講習会 講演 その二 菊池寛
解説 表紙に「昭和十九年三月三十一日 脚本講習会(その二) 菊池寛氏」と記載。講演の採録原稿、出版を見越して修正が入っている。
映公 05-013 (大日本映画協会資料)
大日本映画協会 映画脚本講習会 講演「国民大衆と映画 その一」城戸四郎
解説 表紙に「昭和十九年四月十二日 映画脚本講習会 国民大衆と映画(その一) 城戸四郎氏」と記載。講演の採録原稿、出版を見越して修正が入っている。なお「その二」は表紙(昭和十九年五月十九日 映画脚本講習会 国民大衆と映画 その二 城戸四郎氏)のみあって本文はない。
映公 05-014 (大日本映画協会資料)
大日本映画協会 映画脚本講習会 講演「映画脚本としてのストーリーの組立て方 その一」依田義賢
解説 表紙に「昭和十九年四月二十六日 映画脚本講習会 映画脚本としてのストーリー [ママ]の組立て方 その一 依田義賢氏」と記載。講演の採録原稿、出版を見越して修正が入っている。2部構成。
映公 05-015 (大日本映画協会資料)
大日本映画協会 映画脚本講習会 講演「脚本は如何に映画化されるか」島津保次郎
解説 表紙に「昭和十九年五月十二日 映画脚本講習会 脚本は如何に映画化されるか 島津保次郎氏」と記載。講演の採録原稿、出版を見越して修正が入っている。
映公 05-016 (大日本映画協会資料)
大日本映画協会 映画脚本講習会 講演「映画と行政」松浦晋
解説 表紙に「昭和十九年六月七日 映画脚本講習会 映画と行政 松浦晋氏」と記載。鉛筆書きで「清水課長 七月二十五日到着」とある。清水課長とは、協会総務部事業課長の清水千代太のことか。講演の採録原稿、出版を見越して修正が入っている。
映公 05-017 (大日本映画協会資料)
技能審査関係書類 昭和17年4月施行
解説 「技能審査委員会」罫紙の1枚目には「技能審査二関スル件(東京施行)」とあり、発議の日付は1942年4月26日。回覧した委員長や委員らの印や署名がある(判読できるものに、委員長「金井」印[金井元彦・内務省警保局検閲課長]、「シマツ」印[島津保次郎]、小杉勇署名、小津安二郎署名、「秀夫」署名[津村秀夫]、内田吐夢署名、「下村」印[下村兼二]、「高田」印[高田稔]、「瀬尾」印[瀬尾光世]、「佐分」署名[佐分利信]、「伊藤」印[伊藤亀雄]、「田中榮三」印、「豊田」印[豊田四郎]らがある)。書類は、演出部、演技部、撮影部に分類(タックインデックス)されており、それぞれ採点簿や試験問題、技能証明書発行申請者一覧などがある。
映公 05-018 (映画公社資料)
米国籍産管理関係書類
解説 表紙の記載は「米国籍映画関係」、「秘」の印あり。資料の内訳は、(1) 敵産映画二関スル件「大日本帝國政府」の用箋

<p>に、内務省、大蔵省、海軍省、陸軍省、警視庁保管のアメリカ映画を記載。手書きで「(二〇、一一、一九) 提出」とある。「(寫)」印あり。(2) 米国映画移管ノ件「社団法人映画配給社」の用箋使用。社団法人映画公社専務理事城戸四郎より情報局第二部第二課長宛、「映公發第32號」、日付は1945年9月15日。軍部が南方より持参したアメリカ映画のフィルムが終戦に際し映画公社に寄贈されたが、情報局への移管が妥当との伺いを申し出たもの(但し手書きで日本映画社内にある敵産フィルム管理事務所に保管するように指示している)。総数120巻のフィルム。(3) 資産並ニ機械、什器管理状態概要説明書 日付は1945年9月、名義人は社団法人日本映画社敵産管理事務所事務責任者坪谷亮八。アメリカ映画各社所有の映写機売却の明細。(4) ユナイテッド・アーチスツ・コーポレーション・オブ・ジャパン管理財産整理表 日付は自1944年9月1日、至1945年9月15日。(5) 大日本ユニバーサル映画配給株式会社管理財産整理表 日付は自1944年9月1日、至1945年9月15日。(6) トエンティース・センチュリー・フォックス(ファーイースト)インコーポレーテッド管理財産整理表 日付は自1944年9月1日、至1945年9月15日。(7) コロムビア・フィルムス・リミテッド管理財産整理表 日付は自1944年9月1日、至1945年9月15日。(8) ワナー・ブラザーズ・ファースト・ナショナル・ピクチャース・ジャパン・インコーポレーテッド管理財産整理表 日付は自1944年9月1日、至1945年9月15日。(9) メトロ・ゴールドウィン・メーヤー・カンパニー・リミテッド管理財産整理表 日付は自1944年9月1日、至1945年9月15日。(10) 日本アルケーオーラデオ映画株式会社管理財産整理表 日付は自1944年9月1日、至1945年9月15日。(11) パラマウント・フィルムス・リミテッド管理財産整理表 日付は自1944年9月1日、至1945年9月15日。(12) ユナイテッド・アーチスツ・コーポレーション・オブ・ジャパン整理報告書 日付は1945年9月。敵産管理人社団法人日本映画社社長古野伊之助より大蔵大臣津島寿一宛〔以下、整理報告書は全て同じ宛先〕。(13) 大日本ユニヴァーサル映画配給株式会社整理報告書 日付は1945年10月18日。(14) トエンティース・センチュリー・フォックス(ファーイースト)インコーポレーテッド整理報告書 日付は1945年10月。(15) コロムビア・フィルムス・リミテッド整理報告書 日付は1945年10月。(16) ワナー・ブラザーズ・ファースト・ナショナル・ピクチャース・ジャパン・インコーポレーテッド整理報告書 日付は1945年10月。(17) メトロ・ゴールドウィン・メーヤー・カンパニー・リミテッド整理報告書 日付は1945年10月。(18) 日本アルケーオーラデオ映画株式会社整理報告書 日付は1945年10月。(19) パラマウント・フィルムス・リミテッド整理報告書 日付は1945年10月。</p>
<p>映公 05-019 〈映画配給社資料〉 社団法人映画配給社南方局 帝国銀行室町支店当座勘定通帳 解説 記入日付は1943年7月16日～1944年8月12日。</p>
<p>映公 05-020 〈映画配給社資料〉 社団法人映画配給社南方局北ボルネオ支社 計算表 解説 記載日付は1943年2月28日現在～1943年8月31日現在で、1943年2月分～6月分、8月分の計算表(明細表)。</p>
<p>映公 05-021 南満州鉄道株式会社東亜経済調査局 諸経費仕訳簿 解説 記入日付は1914年4月～1917年3月。内訳は俸給、給料、図書費、新聞雑誌費、文具費、通信費、運搬費、交通費、備品費、旅費、印刷費、被服費、消耗費、雑費(一般、翻訳)、等。</p>
<p>映公 05-022 大日本映画製作株式会社(仮称) 定款(案) 解説 作成は情報局、日付は1941年12月8日。「(川)」の署名あり、情報局の川面隆三のものか。「(仮称)」「(案)」を削除し日付を「28/12/16」と記入。</p>
<p>映公 05-023 文化映画製作会社統合促進に関する質疑応答 解説 作成は文化映画製作者懇話会、日付は1941年9月12日。</p>
<p>映公 05-024 大日本映画配給社業務規程(案) 解説 日付は1941年11月11日(書き込みで1941年11月19日)。文書名は「業務規程(案)」のみ。「(川)」の署名あり。</p>
<p>映公 05-025 社団法人大日本映画配給社(仮称) 配給業務規程要綱案 解説 作成は情報局、日付は1941年11月24日。</p>
<p>映公 05-026 社団法人映画配給社定款 解説 作成は1942年。設立者は古野伊之助、大谷竹次郎〔白井信太郎と訂正〕、植村泰二〔大橋武雄と訂正〕、河合龍斎。</p>

映公 05-027 社団法人映画配給社第一年度事業予算 解説 文書名は「第壹年度事業豫算」のみ。
映公 05-028 社団法人映画配給社配給業務規程案 解説 日付は1942年1月24日。
映公 05-029 社団法人映画配給社配給業務規程案 解説 日付は1942年1月31日。
映公 05-030 南方映画工作要綱（案） 解説 表紙に「(秘)」印。要綱（案）では映画配給社が近く設立予定とあり1942年4月以前の文書と思われる。
映公 05-031 社団法人南洋映画社（仮称）設立要綱（案） 解説 表紙に「(秘)」印。1942年9月、南洋映画協会は解散したが、それに替わる団体として社団法人南洋映画社は設立されず、映画配給社南方局と日本映画社海外局とに業務が分担された。要綱（案）では映画配給社が近く設立予定とあり1942年4月以前の文書と思われる。
映公 05-032 劇映画三社作品月別一覧表（昭和17年）
映公 05-033 再映物一覧表 解説 手書きで「再映物一覧表」と記載。作成日付は[1942年]10月8日。
映公 05-034 関東映画製作者調査表 文化映画認定室 解説 文化映画製作者をイロハ順で記載。作成は1939年頃か。文化映画認定室は文部省内にあった。
映公 05-035（映画配給社資料） 興行場映写機械機能査定及検査基準 解説 作成は社団法人映画配給社関東支社技術課、日付は1943年11月23日。級別は、甲級、乙級、丙級上、丙級中、丙級下、丁級に分かれている。
映公 05-036 封切作品興行価値調査表（松竹・東宝・大映） 昭和21年 解説 「社団法人映画配給社」用箋に記載されているが、作品は1945年12月から1946年8月までで、年代的に映画配給社の資料ではない。
映公 05-037（映画配給社資料） 映画配給社南方関係書類 解説 背表紙に「(南方)南方全般」と記載。見出しは総括部門、製作部門、配給・上映部門、資材部門、資金部門、関聯部門に分かれている。各文書には「調査資料ファイル分類」と押印され、それぞれ「地域」「部門」「番号」「備考」に対して書き込みがある。各書類の内訳は、(1)情報局南方映画選定委員会決定作品（劇映画・文化映画） 委員会は1942年12月～1944年12月に開催。(2)南方映画工作処理要項 [ママ] / 陸軍南方占領地域ニ於ケル映画工作処理要領 [ママ] 南方映画工作処理要項は1942年9月10日、次官會議室決定で陸軍省・海軍省・外務省・情報局が参加。陸軍南方占領地域ニ於ケル映画工作処理要領は1942年9月11日、陸軍省情報部決定。手書きで「(秘)」の記載あり。(3)大東亜ニュース（マライ版）マライ語解説 第1号～第52号の見出しを日本語で記述。(4)大東亜ニュース（フィリピン版）タガログ語解説 第1号～第59号の見出しを日本語で記述。(5)大東亜ニュース（ビルマ版）ビルマ語解説 第1号～第35号の見出しを日本語で記述。(6)世界ニュース（泰語版）泰語解説 第1号～第63号の見出しを日本語で記述。(7)世界ニュース（仏印版）仏語解説 第1号～第70号の見出しを日本語で記述。(8)世界電影新聞 支那語解説 第1号～第51号の見出しを日本語で記述。(9)日映文化映画製作局に於ける対外向作品リスト 1942年～1943年作品。(10)日映海外局に於ける海外向編輯加工映画リスト（自昭和17年4月至昭和18年12月） 東宝・松竹・大映・旧日活・日映等の作品の海外版の種類と完成年月日等を記述。(11)日映時事映画製作状況 昭和18年11月末調査。(12)海外版の製作状況 日付は1943年3月1日。

<p>(13) 日本映画社 大陸南方支社機構 昭和18年11月4日現在。(14) 日映海外支社業務内容 1943年12月中旬作成か。(15) 第1回留日学生招待映画会経過報告書 南方局計画部により1943年7月24日開催。(16) 南方輸出映画一覧表(国際観光局・南洋映画協会・日本映画社) 1942年3月16日現在。(17) 社団法人映画配給社南方局 貸借対照表/収支計算書 日付は1942年10月～1943年12月。表紙に手書きで「(秘)」の記載あり。(18) 南方各支社向発送プリント月別及空輸・船便別数量一覧表 昭和18年度。(19) 南方各支社向発送映画数量一覧表 昭和17年～昭和19年。(20) 南方向発送映画月別総プリント数・総巻数・総呟数 自昭和18年1月 至昭和19年2月。折れ線グラフ。(21) 南方向発送映画数量一覧表(支社別・月別) 自昭和18年1月 至昭和19年2月。(22) 南方各支社業態一覧表 1944年6月末現在、南方局作業部調査。(23) 南方各地域映画館数一覧表 1943年8月末～1944年1月末現在。(24) 南方各支社人員表(邦人職員) 1942年12月末～1943年12月末現在。(25) 南方局本社関係機構人事 日付は1944年7月26日。(26) 南方局現地関係機構人事 日付は1944年7月26日。(27) 南方局入手生フィルム数量 自1943年1月 至12月。(28) 南方局生フィルム使用量 自昭和17年10月 至昭和19年1月。(29) 映画配給社南方局納入映写機型式一覧表 1942年11月末現在。(30) 南方各支社所有映写機・発電機型式一覧表。(31) 南方各支社〔携帯用〕映写機・発電機数 1942年12月末～1943年12月末。(32) 南方各支社向発送映写資材数量一覧表(1943年度累計)。(33) 南方各支社映写機・発動発電機配分一覧表 1944年7月現在。(34) 映配南方局各支社発送資材調査表 1942年10月～1944年3月9日現在。(35) 南方局各支社配給収入 興行収入(直営) 調 1944年3月6日、南方局経理課調。(36) 南方諸地域人口一覧表。(37) 南方共栄圏視察報告ノ一部 作成は情報局第一部、日付は1942年7月。表紙に「南洋映画協会企画部調査課」の印あり。(38) 南方地域ニ於ケル支那映画 執筆者の中井金兵衛〔名前は判読困難なため推定〕が、南洋映画協会業務部の山根〔正吉〕部長と南洋映画協会企画部の狩谷〔太郎〕部長に宛てた報告書。「山根」「狩谷」「中井」の印あり。執筆時期は南洋映画協会が解散する1942年9月以前のもの、1942年3月頃か。</p>
<p>映公 05-038 (映画公社資料) 恒久平和研究所及び日本移動映写聯盟に対する映画公社からの請求書・領収書綴 解説 日付は1947年2月分から1948年1月分まで。背表紙には「總局内発信綴」と書かれた上に紙が貼ってある。</p>
<p>映公 05-039 (映画公社資料) 映画公社本社図面等 解説 1945年6月より業務を開始した映画公社は、日本橋区室町1丁目7番の三越本店の6階、7階を本社としていた(1943年2月15日より、映画公社の前身である映画配給社の東京本社の一部機能を、三越本店6階、7階に移転させていた)。この資料はその配置図面とメモ。</p>
<p>映公 05-040 (映画公社資料) 映画公社に対する世界恒久平和研究所からの領収書 解説 日付は1947年10月25日。映画公社の電話料の領収書。</p>
<p>映公 05-041 (映画公社資料) 映画公社に対する筑波興業株式会社からの譲渡証 解説 日付は1947年10月11日。映画公社の電話譲渡に関する書類。</p>
<p>映公 05-042 (映画公社資料) 映画公社に対する日本鋳業株式会社からの書状 解説 日付は1947年10月31日。映画公社の未払いに対する督促状。</p>
<p>映公 05-043 (映画公社資料) 映画公社に対する帝国銀行東京支店からの書状 解説 日付は1947年11月28日。映画公社の箕浦甚吾が給料を受け取っていないことを通知したものの。</p>
<p>映公 05-044 (映画公社資料) 昇降機使用伝票 解説 昇降機使用伝票</p>
<p>映公 05-045 (映画配給社資料) 社団法人映画配給社 B5 罫紙 解説 未使用の縦罫紙、日付欄入、「17.4.2000冊(光)」。「恒久平和研究所及び日本移動映写聯盟に対する映画公社からの請求書・領収書」に使用してあるもの。</p>
<p>映公 05-046 (映画配給社資料) 社団法人映画配給社社員通勤証明書(定期乗車券購入用) 解説 未記入。「人事報告書」用紙の裏紙を使用してある。</p>

映公 05-047 〈映画公社資料〉	納付書 / 給与所得及び退職所得に対する所得税徴収高計算書 / 領収済通知書 / 領収証書
解説	未使用。
映公 05-048 〈映画配給社資料〉	社団法人映画配給社給料袋
解説	手書きで「昇降機代」とある。
映公 05-049 〈映画配給社資料〉	映画配給社国民貯蓄組合 預貯金・利子報告書
解説	未使用。
映公 05-050 〈大日本映画協会資料〉	絵とき「映画法」
解説	彩色水彩画、11 枚。1939 年に大日本映画協会主催で開催された「映画法実施記念 映画文化展覧会」に展示された映画法の内容を解説したもの。元は絵と共に解説文があった。図録「映画文化展覧会記録」には「『映画法』の簡易なる漫画解説」(60 頁)とある。(1) 映画法は映画の慈母役をする、(2) 製作業に許可を要する所以、(3) 配給業者も大臣の許可を要す、(4) 脚本も事前検閲を要す、(5) 監督俳優カメラマンの検査、(6) 女子年少者の深夜業禁止、(7) 検閲標準の積極化、(8) [興行三時間 / 外国映画ノ制限 / 文化映画ノ上映]、(9) 子供専用館、(10) 製作者の名誉は国家的、(11) 貴重なる映画保存。

Catalog of Material of the Public Film Corporation

Sazaki Yoriaki

The material of the Public Film Corporation here refers to a portion of the film-related material in the possession of the Public Film Corporation (hereafter “Film Corp.”), which began operating in June 1945, and was dissolved in November of the same year, following the end of World War II. During this period, as Japan’s wartime structure became increasingly strained, the government consolidated the Great Japan Film Association, the Film Distribution Company and various other corporations. Film Corp. fulfilled the role of being the final regulatory organ responsible for the centralized national control of the production, distribution and showing of films.

The material that Film Corp. possessed was also a collection of what had been accumulated by the various organizations dissolved, consolidated and otherwise rearranged in wartime Japan, such as the Research Department of Kinema Junposha Co., Ltd. The Japan Motion Picture Union (later the Motion Picture Producers Association of Japan, Inc.), which took over Film Corp.’s material after the public corporation’s dissolution, donated this material to the National Diet Library in 1951. Thereafter, in 1974, the Diet Library transferred it to the National Museum of Modern Art, Tokyo (MOMAT).

The Film Corp. material includes an enormous amount of film stills, posters and scripts. These have already been documented and filed and are a part of the MOMAT National Film Center’s collection of important material. The 199 items newly documented and filed for this current project are material not falling under any of the aforementioned categories. They include in-house newsletters, news article scrapbooks and movie theater surveys, as well as internal documents such as the minutes of meetings and the manuscripts for lectures to cultivate film people. The documentation and publicizing of these items, which escaped becoming scattered and lost, will aid in carrying out evidence-backed analysis when researching Japanese film during the war.